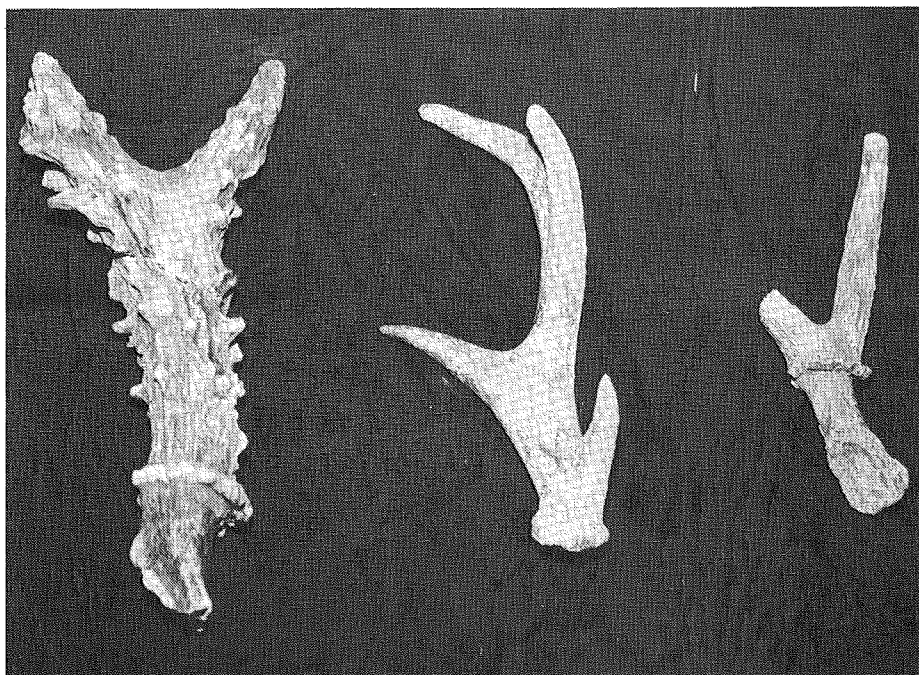


沖繩県立博物館年報

No. 28



1995

沖繩県立博物館

表紙写真：左 シヤコノロジカの角
中 リュウキュウジカの角
右 リュウキュウムカシキョンの角

序

社会の進展に伴い県民一人ひとりの学習意欲が新たな高まりをみせております。このような県民のニーズに対し、当博物館では生涯学習の場として、また県民に親しまれる博物館にするため博物館事業の振興、充実に努めてまいりました。

平成6年度は次のような行事を行いました。

5月初旬から下旬にかけて前年度に寄贈、購入、収集した資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。寄贈資料の中には「麻紺地総緋着物（宮古上布）」をはじめ「芭蕉パングョウ緋着物」、「絹薄茶地流水に菊文様胴衣」等がありました。購入資料として、比嘉華山作の「琉球風俗画帖」の美術資料、「明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書（レプリカ）」の歴史資料がありました。

7月には特別展「子どもの世界」が開催され、期間中2万人余の入場者があり、大盛況のうちに終わりました。この特別展では考古資料にみる子ども、歴史資料や絵図・絵画にみる子ども、祭りや人生儀礼など民俗行事にみる子ども、子どもの衣装、玩具、過去と現代の遊び、わらべ歌、絵本や漫画にみる子どもの世相、写真・映像資料にみる子どもなど様々な視点から子どもの世界を展開しました。

一方、展示会のほかに次のような事業を行いました。例年、当博物館が力を入れて取り組んでいる移動博物館は18回目をかぞえ、座間味村の座間味小学校で開催しました。展示内容は考古、歴史、自然、美術工芸、民俗の5分野からなり、総展示数は300点にもなり盛況のうちに閉会しました。また、新しい試みとして親子で楽しめる映画や音楽を主とした博物館シアターを毎月1回、日曜日に開きました。文化講座は236回から247回まで開催し多くの県民が受講しました。毎月1回、第2土曜日の休業日には子ども体験教室を開き子どもたちや、両親から大変喜ばれました。夏休み「歩く・見る・作る」教室にも多くの親子が参加して好評でした。沖縄県立博物館新館展示委員会は平成6年7月より新館展示計画の策定のための調査、研究を行い12月には「沖縄県立博物館新館展示計画」をまとめました。その他、平成7年3月に横浜国立大学教授長谷川善和氏より鹿類を中心とした化石約25,000点の寄贈がありました。

以上が平成6年度の博物館活動の概要であります。平成7年度以降も特別展や企画展等生涯学習時代に対応した文化講座、博物館シアター、子ども達を対象にした「子ども体験学習」等の活動に力を入れ、さらに充実させていきたいと思っておりますので一層のご助言、ご協力をお願いいたします。

平成7年（1995）7月

沖縄県立博物館館長 糸 数 兼 治

目次

序	館長 糸数 兼治
I、概要	
1 沿革	5
2 施設、設備	7
3 予算	9
4 組織	10
II、入館者数	
1 入館者数	12
2 県内外児童生徒学生団体見学者	15
III、調査研究等の活動	
1 調査研究	17
2 著作論文	20
3 講演等	22
4 職員研修	27
IV、展示活動	
1 常設展	29
2 特別展	32
3 企画展	37
4 移動博物館	39
V、教育普及活動	
1 活動の概要	44
2 博物館文化講座	44
3 夏休み「歩く・見る・作る」教室	46
4 子ども体験学習教室	47
5 ボランティア活動事業	48
6 博物館シアター	49
7 博物館を利用した研修	52
VI、収蔵資料	
1 収蔵資料現在高	54
2 1994（平成6）年度新収蔵資料高	54
3 1994（平成6）年度新収蔵資料目録	55
4 所蔵国県指定文化財	57
VII、刊行物	58
VIII、その他の活動	
1 資料貸出	59
2 燻蒸処理	60
3 旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査	60
4 施設整備事業	61
5 沖縄県立博物館協議会	61
6 沖縄県博物館協会	62
7 博物館実習	63
8 沖縄県立博物館友の会	63
IX、日誌抄	65
X、関係法規抄録	68

I 概要

1 沿革

〔前史〕昭和11年(1936)沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年(1946)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年(1953)東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年(1955)には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年(1966)には現敷地に新館を建設して移転する。同47年(1972)の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年(1973)、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

— 〔主な事項〕 —

- | | |
|-------------|---|
| 昭和21年(1946) | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年(1947) | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年(1953) | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年(1955) | 9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年(1965) | この年、大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿、現敷地)を購入する。 |
| 昭和41年(1966) | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年(1972) | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年(1973) | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年(1976) | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年(1980) | 1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。 |
| 昭和56年(1981) | 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。 |
| 昭和57年(1982) | 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄交流展—熊本の歴史と文化」を開催する。 |
| 昭和58年(1983) | 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。 |
| 昭和60年(1985) | 11月、特別展「グスク グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。 |

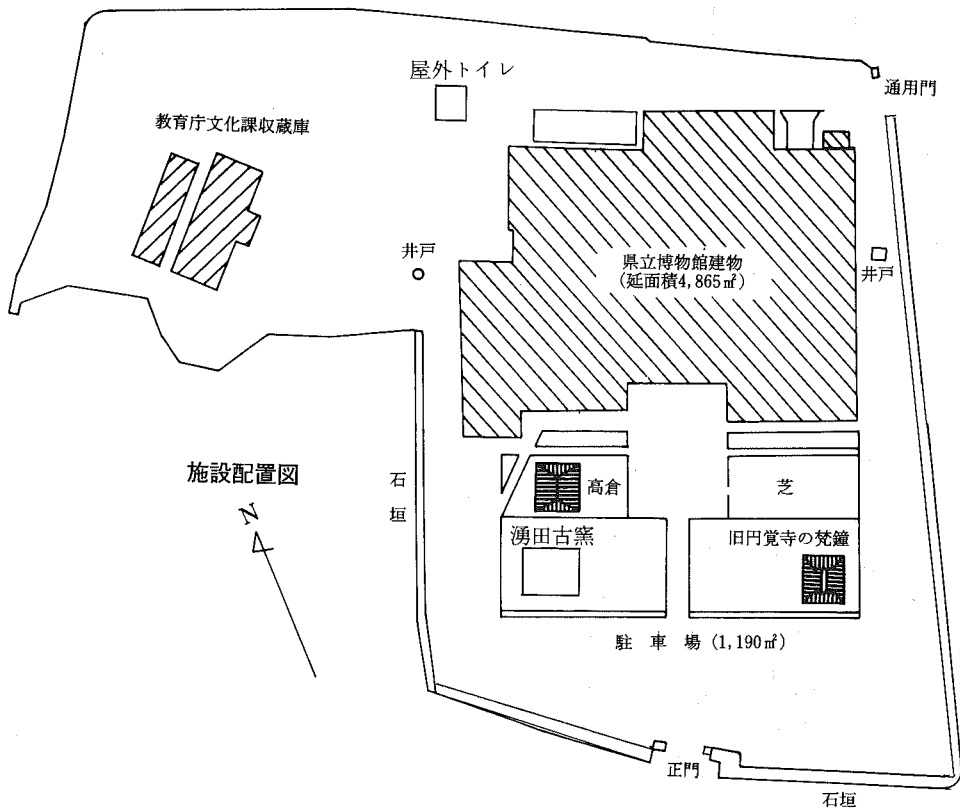
- 昭和61年(1986) 2月、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション」を開催する。
- 昭和62年(1987) 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展—ある首里士族の400年」を開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年(1988) 8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」を開催する。
- 平成元年(1989) 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年(1990) 1月、特別展「大アンデス文明展」を開催する。
- 平成3年(1991) 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」を開催する。
- 平成4年(1992) 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」を開催する。
8月、特別展「沖縄の貝類展」を開催する。
10月、特別展「琉球王国展」を開催する。
- 平成5年(1993) 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」を開催する。
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」を開催する。
- 平成6年(1994) 7月、特別展「子どもの世界」を開催する。

歴代館長

<p>〔東恩納博物館〕</p> <p>大嶺 薫(昭和21・4～28・3)</p>	<p>〔首里博物館〕</p> <p>豊平 良頭(昭和22・12～23・3)</p> <p>原田 貞吉(昭和23・8～28・3)</p>
--	---

- 原田 貞吉(昭和28・3～30・5)
- 山里 永吉(昭和30・8～33・8)〔琉球政府立博物館〕
- 金城増太郎(昭和33・9～36・12)
- 大城 知善(昭和37・2～44・11)
- 外間 正幸(昭和44・12～56・3)〔沖縄県立博物館〕
- 大城徳次郎(昭和56・4～58・3)
- 大城 立裕(昭和58・4～61・3)
- 大城 宗清(昭和61・4～平4・3)
- 宜保榮治郎(平成4・4～平6・3)
- 系数 兼治(平成6・4～)

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267㎡
●建物のべ面積	4,865㎡
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積	1,590㎡
1階	632
2階	958
●ロビー面積	256㎡
●収蔵庫面積	858㎡
●駐車場面積	1,190㎡
●庭園面積	1,612㎡
●講堂	632㎡
客席数215席	
●空調機能力	

ヒートポンプ式チリングユニット
125,000Kcal/h×2機

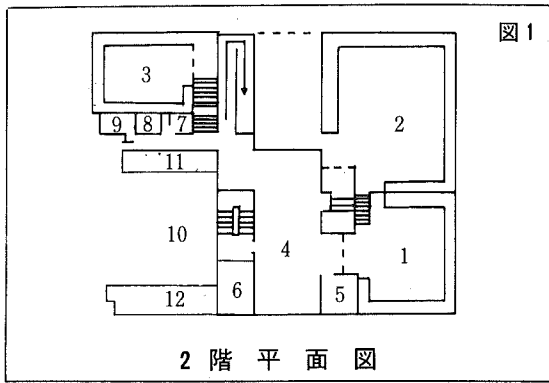
エアハンドリングユニット 6機
パッケージ型エアコン

56,000Kcal/h×1機
28,000Kcal/h×1機
2,000Kcal/h×1機
8,400Kcal/h×1機
20,000Kcal/h×1機
7,100Kcal/h×2機
1,200Kcal/h×1機
5,000Kcal/h×2機

●変電室

電灯	1φ3W 30KVA×1機
電灯・動力	3φ4W 100KVA×1機
動力	3φ3W 250KVA×1機

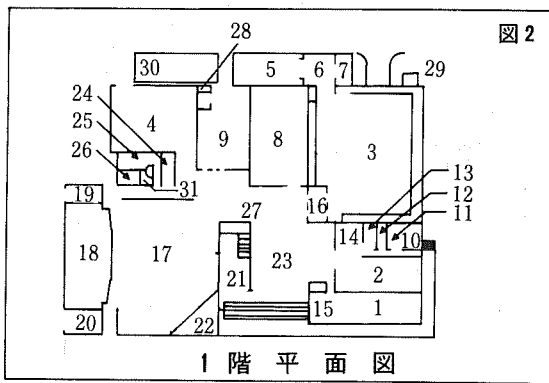
●契約電力……………207kw



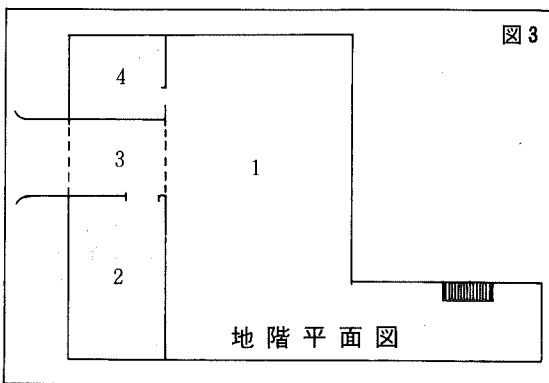
<2階>

番号	室名	面積
1	美術工芸展示室	265㎡
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	コンピューター室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	化石収蔵庫(中2階)	120
11	貝類収蔵室	25
12	陶器収蔵室	36
13	その他	145㎡

<1階>



番号	室名	面積
1	事務室	115㎡
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	案内コーナー	18
17	講堂(客室)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	11
27	友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5
30	厨子甕収蔵庫	75
31	身障者用トイレ	6



<地階>

番号	室名	面積
1	収蔵庫	285㎡
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

平成6年度博物館費（決算）

（単位：円）

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報 酬	131,200	0	131,200
賃 金	2,768,960	4,622,900	7,391,860
報 償 費	1,020,000	1,504,420	2,524,420
旅 費	4,212,667	10,787,415	15,000,082
需 用 費	22,373,446	20,689,367	43,062,813
役 務 費	832,454	13,277,114	14,109,568
委 託 料	33,918,035	32,988,953	66,906,988
使用料及び賃借料	1,329,598	2,251,160	3,580,758
工 事 請 負 費	7,644,068	0	7,644,068
備 品 購 入 費	7,780,273	7,009,454	14,789,727
負担金補助及交付金	70,000	0	70,000
公 課 費	18,900	0	18,900
合 計	82,099,601	93,130,783	175,230,384

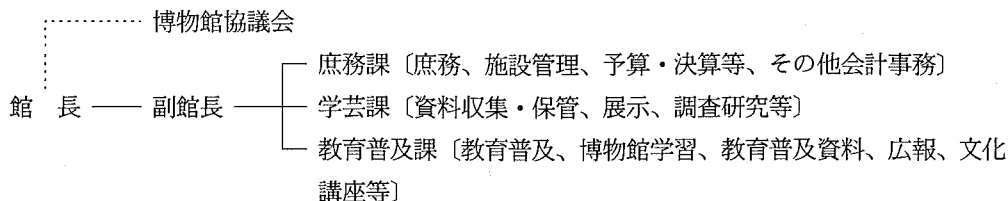
平成6年度歳入状況（決算）

（単位：円）

	友 の 会 等	特 別 展 等	合 計
博 物 館 使 用 料	0	12,125,030	12,125,030
土 地 使 用 料	10,475	0	10,475
建 物 使 用 料	24,140	0	24,140
雑 入	166,893	0	166,893
合 計	201,508	12,125,030	12,326,538

4 組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

平成7年4月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	糸 数 兼 治	博物館業務の総理に関すること。
副 館 長	真玉橋 長 俊	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

庶 務 課

課 長	上 地 泰 順	庶務課の統轄、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、職員研修計画、その他庶務に関すること。
主 査	友 利 カ ズ	歳入、会計事務（旅費・報償費・超勤手当）、消耗品の受入、出勤簿整理、諸手当の認定、賃金職員の申請、図書類受入、切手等の管理に関すること。
副 主 査	玉 元 妙 子	給与、会計事務（旅費・報償費・超勤手当等を除く）、決算、文書等の収受に関すること。
主 任 技 師	吉 里 功	施設設備の保守管理、くん蒸、車両の管理、その他庶務に関すること。

学 芸 課

主 幹 兼 課 長	大 城 将 保	学芸業務の統轄、歴史、学芸研修、博物館実習及び沖博協に関すること。
指導主事（充）	久 貝 勝 盛	自然史（植物・動物）、総合調査、図書購入、年報及び紀要に関すること。
指 導 主 事	瀬 名 波 任	自然史（地質）及び沖博協に関すること。
“（充）	嵩 原 建 二	自然史（植物・動物）、収蔵資料整理等及び収蔵資料管理システムに関すること。
学 芸 員	萩 尾 俊 章	歴史に関すること。
“	與 那 嶺 一 子	美術工芸（染織・書跡）、収蔵品台帳、資料貸出及び写真資料に関すること。
指導主事（充）	津 波 古 聡	美術工芸（絵画・漆器・陶器）、収蔵資料整理等に関すること。
“（充）	太 田 健 一	民俗、収蔵資料整理等に関すること。

教育普及課

職名	氏名	担当業務
主幹兼課長	當眞嗣一	教育普及業務の統轄、友の会の指導等及び考古に関する こと。
指導主事	前田真之	博物館学習、団体見学、体験学習、ボランティア活動及 び広報（展示リーフレット等）に関すること。
指導主事（充）	瑞慶山昇	移動博物館、博物館シアター、視聴覚機器の整備、広報 （年間行事リーフレット等）、美術工芸（彫刻等）に関 すること。
学芸員補（副）	比嘉志津代	文化講座、広報（マスコミ等）、視聴覚資料等に関する こと。

非常勤職員

職名	氏名	担当業務
教育普及補助員	上原敏子	教育普及及び展示解説に関すること。
〃	桃原みどり	教育普及、展示解説及び図書類受入補助に関すること
監視員	東美智子 金城民子 新城良子	受付補助及び展示場監視に関すること。
〃	小橋川敏子 松田昌子 比嘉春子	展示場監視に関すること。
緑化整備員	渡慶次紫宝	緑化整備に関すること。

博物館友の会

博物館友の会	池宮城啓子	博物館友の会の庶務会計
--------	-------	-------------

(3) 人事異動

平成7年4月1日

職名	氏名	摘要
〈転出〉 副館長 庶務課長 主任技師 指導主事	濱比嘉勝 山里盛直 岸本実	教育庁文化課 副参事へ 教育庁高等学校教育課 庶務係長へ 総務部消防防災課へ
〈転入〉 副館長 庶務課長 主任技師 指導主事（充） 〃（充）	真玉橋長俊 上地泰順 友利カズ 吉里功聡 津波古 太田健一	教育庁保健体育課 課長補佐から 中頭教育事務所 庶務係長から 教育庁保健体育課から 議会事務局総務課から 海洋博覧会記念公園管理財団首里管理センター 調査・展示係長から 糸満高等学校 教諭から

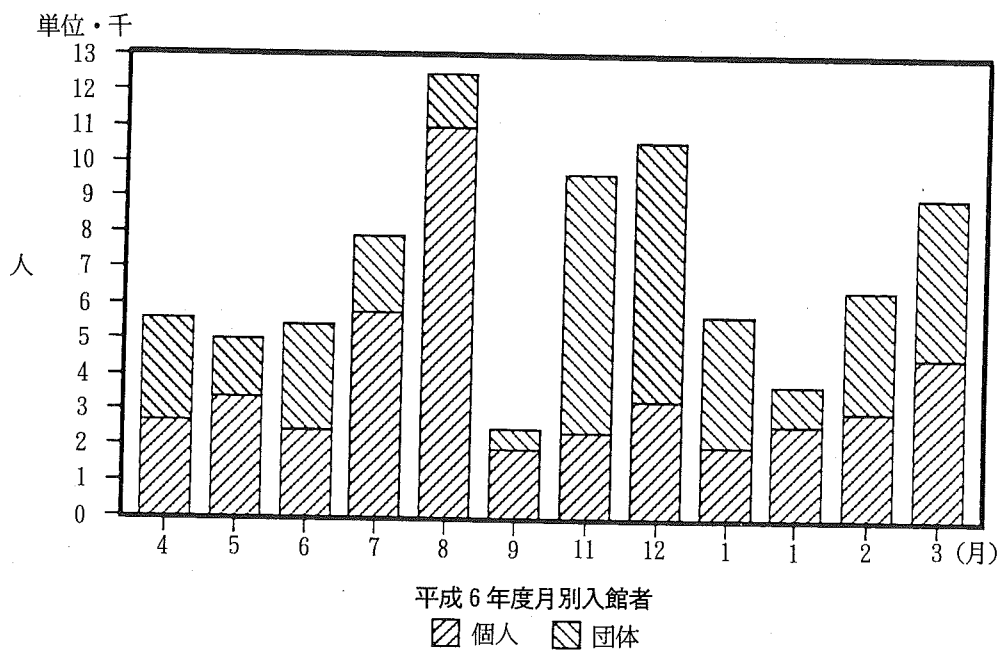
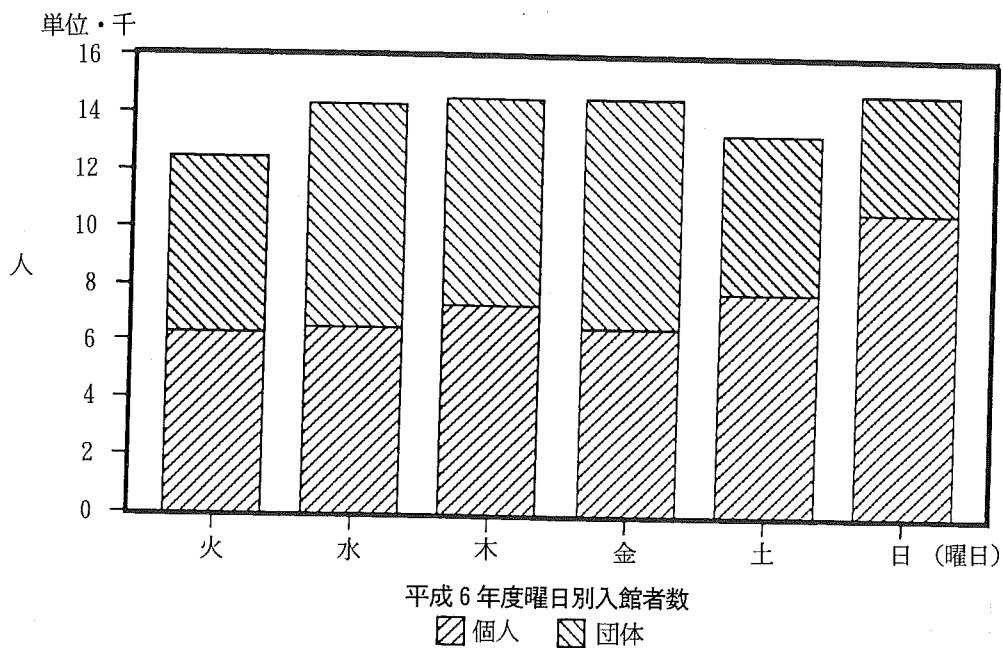
II 入館者数

1 入館者数(平成6年4月1日~平成7年3月31日) 特別展等を含む 入館者月別集計

年	個人入館者数												団体入館者数						入館者総数						1日 平均 入館者 数		
	大人		高次生		小中生		合計		大人		高次生		小中生		合計		大人		高次生		小中生		合計				
	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計			
6年	4月	2,315	()	133	()	219	(15)	2,667	(15)	916	(113)	285	(66)	125	(1,356)	1,326	(1,595)	3,231	(113)	418	(66)	344	(1,371)	3,983	(1,350)	25	222
	5月	2,905	(14)	155	(1)	243	(29)	3,303	(44)	305	(148)	666	()	178	(364)	1,149	(512)	3,210	(162)	821	(1)	421	(393)	4,452	(556)	24	209
	6月	2,214	()	142	(2)	86	(14)	2,442	(16)	322	(414)	891	()	373	(947)	1,586	(1,361)	2,536	(414)	1,033	(2)	459	(961)	4,028	(1,377)	25	215
	7月	3,102	(89)	359	()	2,063	(127)	5,524	(216)	714	(165)	612	()	265	(406)	1,581	(571)	3,816	(254)	971	()	2,318	(533)	7,105	(787)	17	464
	8月	5,371	(300)	715	()	3,807	(779)	9,893	(1,079)	693	(175)	19	()	486	(127)	1,198	(302)	6,064	(475)	734	()	4,293	(306)	11,091	(1,381)	26	480
	9月	1,645	()	167	()	80	(12)	1,892	(12)	50	(73)	411	()	40	(26)	501	(99)	1,695	(73)	578	()	120	(38)	2,393	(111)	18	139
	10月	2,062	(5)	187	()	143	(21)	2,392	(26)	274	(560)	2,632	(182)	724	(2,920)	3,630	(3,662)	2,336	(565)	2,819	(182)	867	(2,941)	6,022	(3,688)	25	388
	11月	2,644	()	412	()	212	(31)	3,268	(31)	272	(496)	3,022	(64)	593	(2,871)	3,887	(3,431)	2,916	(496)	3,434	(64)	805	(2,902)	7,155	(3,462)	25	425
7年	12月	1,801	()	125	()	103	()	2,029	()	392	(163)	2,296	()	511	(303)	3,199	(466)	2,193	(163)	2,421	()	614	(303)	5,228	(466)	22	259
	1月	2,198	()	195	()	161	(72)	2,554	(72)	162	(132)	265	(241)	1	(307)	428	(680)	2,360	(132)	460	(241)	162	(379)	2,982	(752)	22	170
	2月	2,431	()	390	()	194	()	3,015	()	250	(204)	414	()	175	(2,360)	839	(2,564)	2,681	(204)	804	()	369	(2,360)	3,854	(2,564)	23	279
3月	3,575	(2)	589	()	395	()	4,559	(2)	437	(344)	2,017	()	338	(1,349)	2,792	(1,663)	4,012	(346)	2,606	()	733	(1,349)	7,351	(1,685)	26	346	
合計	32,263	(410)	3,569	(3)	7,706	(1,100)	43,538	(1,513)	4,787	(2,987)	13,530	(553)	3,799	(13,336)	22,116	(16,876)	37,050	(3,397)	17,099	(556)	11,505	(14,436)	65,654	(13,389)			
総計	32,673		3,572		8,806		45,051		7,774		14,083		17,135		38,992		40,447		17,655		25,941		84,043		278	302	

入館者曜日別集計

曜	個人入館者数												団体入館者数						入館者総数						1日 平均 入館者 数	
	大人		高次生		小中生		合計		大人		高次生		小中生		合計		大人		高次生		小中生		合計			
	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計	有料(無料)	合計		
月	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0
火	4,362	(74)	560	(0)	1,163	(165)	6,085	(239)	470	(590)	2,490	(26)	679	(1,879)	3,639	(2,495)	4,832	(664)	3,050	(26)	1,842	(2,044)	9,724	(2,734)	45	277
水	4,486	(88)	587	(0)	1,149	(179)	6,222	(268)	391	(518)	2,755	(232)	919	(2,981)	4,065	(3,731)	4,877	(607)	3,342	(232)	2,068	(3,160)	10,287	(3,995)	45	317
木	5,050	(36)	759	(0)	1,328	(125)	7,137	(161)	1,131	(612)	1,523	(90)	405	(3,466)	3,059	(4,168)	6,181	(648)	2,282	(90)	1,733	(3,581)	10,196	(4,329)	46	316
金	4,877	(46)	509	(0)	937	(169)	6,323	(215)	1,076	(600)	2,078	(14)	1,228	(3,039)	4,382	(3,653)	5,953	(646)	2,587	(14)	2,165	(3,208)	10,705	(3,868)	46	317
土	5,807	(47)	570	(3)	1,037	(322)	7,414	(372)	474	(377)	2,617	(11)	239	(1,864)	3,330	(2,252)	6,281	(424)	3,187	(14)	2,276	(2,186)	10,744	(2,624)	48	279
日	7,681	(118)	584	(0)	2,092	(140)	10,357	(258)	1,245	(290)	2,067	(180)	329	(1,07)	3,641	(577)	8,926	(408)	2,651	(180)	2,421	(247)	13,988	(635)	48	309
合計	32,263	(410)	3,569	(3)	7,706	(1,100)	43,538	(1,513)	4,787	(2,987)	13,530	(553)	3,799	(13,336)	22,116	(16,876)	37,050	(3,397)	17,099	(556)	11,505	(14,436)	65,654	(13,389)	278	302



2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 22,711名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	16	天妃小学校	135名	10	18	米須小学校	46名	11	11	中の町小学校	125名
	16	城西小学校	40名		19	真壁小学校	49名		11	東小学校	19名
	16	識名小学校	183名		19	佐敷小学校	68名		11	安富祖小学校	19名
	16	松島小学校	175名		20	具志川小学校	63名		11	奥間小学校	35名
	19	津覇小学校	89名		20	中川小学校	8名		11	仲泊小学校	28名
	22	前島小学校	71名		20	本部小学校	163名		11	西小学校	54名
	23	真地小学校	117名		20	喜如嘉小学校	17名		16	嘉手納小学校	146名
	23	城西小学校	40名		20	喜屋武小学校	45名		16	仲里小学校	40名
	23	仲井真小学校	149名		20	城西小学校	160名		17	北玉小学校	92名
	23	城北小学校	158名		21	豊見城小学校	186名		18	佐手小学校	14名
	28	中城小学校	89名		21	天底小学校	40名		18	アメリカンスクール	55名
	28	光洋小学校	104名		21	上原小学校	15名		22	沖繩三育小学校	24名
5	18	鏡原、宮原小学校	39名		21	伊江小学校	39名		24	与那国小学校	25名
	21	久茂地小学校	69名		22	塩屋小学校	13名		25	稲田小学校	20名
	24	多良間小学校	21名		25	読谷小学校	261名	12	9	天妃小学校	132名
	25	西城小学校	49名		25	和光小学校(東京)	114名	1	19	安波小学校	7名
	26	久松小学校	48名		26	本部小学校	44名		19	真地小学校	100名
	26	久米島小学校	49名		26	金武小学校	101名		20	天仁屋小学校	13名
6	1	北小学校	127名		26	北美小学校	96名		27	西崎小学校	177名
	2	砂川小学校	31名		27	屋良小学校	68名	2	1	上田小学校	175名
	4	東小学校	121名		27	東風平小学校	149名		10	小禄小学校	130名
	9	福嶺小学校	16名		27	清水小学校	40名		14	松島小学校	165名
	9	平良第一小学校	137名		28	宮里小学校	117名		15	光洋小学校	130名
	10	名蔵小学校	14名		28	城前小学校	88名		16	長嶺小学校	244名
	10	南小学校	135名		28	島袋小学校	44名		16	西原小学校	125名
	15	西辺小学校	31名	11	1	宜野座小学校	55名		17	津堅小学校	11名
	18	小禄小学校	103名		1	羽地小学校	84名		17	カデナミドルスクール	31名
	21	船浮小学校	5名		1	浜川小学校	118名		17	久志小学校	13名
	29	新川小学校	184名		1	屋我地小学校	26名		17	兼城小学校	120名
	29	新川小学校	184名		1	真喜屋小学校	23名		17	与儀小学校	138名
	29	美崎小学校	40名		2	沢岬小学校	133名		18	キンサー小学校	74名
	30	座間味小学校	22名		2	楚洲小学校	6名		18	高良小学校	180名
7	1	沖繩カトリック小学校	70名		2	兼次小学校	32名		21	松川小学校	164名
	2	琉大付属小学校	32名		2	北谷第二小学校	84名		21	宇栄原小学校	138名
	2	座間味小学校	22名		2	屋部小学校	63名		22	西原南小学校	75名
	9	神原小学校	28名		2	牧港小学校	135名		23	安謝小学校	120名
	9	糸満小学校	20名		2	今帰仁小学校	61名		24	識名小学校	182名
	5	キンザー小学校	21名		2	与那城小学校	158名		28	上間小学校	160名
9	22	アメリカハーツスクール	40名		2	大北小学校	126名		28	船越小学校	42名
10	5	久部良小学校	10名		2	大宮小学校	152名	3	1	天妃小学校	126名
	5	恩納小学校	56名		4	安慶名小学校	146名		2	若狭小学校	114名
	6	川平小学校	15名		5	辺土名小学校	37名		4	城岳小学校	140名
	6	城西小学校	33名		5	源河小学校	14名		5	東横学園小学校(東京)	76名
	7	東江小学校	120名		6	室川小学校	107名		7	前田小学校	120名
	13	伊平屋小学校	27名		8	嘉芸小学校	22名		8	城西小学校	160名
	13	志真志小学校	140名		9	名護小学校	111名		9	城南小学校	107名
	13	泊小学校	159名		10	漢那小学校	15名		9	真嘉比小学校	64名
	13	玉城小学校	66名		10	勝連小学校	107名		9	神原小学校	124名
	14	百名小学校	52名		10	知念小学校	92名		14	大名小学校	79名
	14	久辺小学校	30名		10	北谷小学校	110名		15	城北小学校	140名
	14	津波小学校	13名		11	当山小学校	183名		28	久茂地小学校	30名
	14	東小学校	125名		11	平敷小学校	88名				

(中学校) 1,963名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	16	早町中学校	45名	6	21	一の宮中学校	130名	11	16	成城中学校	36名
	17	喜界第一中学校	78名	7	26	首里中学校	20名		29	伊是名中学校	36名
5	6	城北中学校	32名	10	6	岡山中学校	44名		30	桑江中学校	160名
	10	レスター中学校	25名		12	合志中学校	105名	12	9	城北中学校	28名
	10	成城中学校	41名		14	"	214名		14	伊波中学校	143名
	10	芦北町立吉尾中学校	25名		20	兼城中学校	120名		16	大津中学校	38名
	26	石田中学校	28名		28	聖ウルスラ学院中学校	55名	2	9	大野中学校	38名
	26	レスターミドルスクール	42名		28	西南学院中学校	192名	3	25	愛媛大学教育学部附属中	78名
6	16	白水中学校	59名	11	9	網田中学校	72名		26	"	79名

(高等学校) 12,771名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	1	山陽女子高等学校	43名	10	25	六甲高校	189名	12	14	大阪産業大学高等学校	92名
	19	都立港工業高等学校	142名		28	白山高校	291名		14	明德商業高等学校	124名
	30	沖繩水産高校	11名	11	4	菊地女子高校	91名		14	大阪産業大学高等学校	136名
5	10	駒場学園高等学校	178名		4	北海道工業高校	164名		15	明德商業高等学校	128名
	10	駒場学園高等学校	217名		6	淑徳巣鴨高校	149名		16	明德商業高等学校	88名
	28	神奈川大学付属高校	200名		6	淑徳巣鴨高校	133名		16	京都女子高校	47名
6	21	高松東高校	250名		6	湘南高校定時制	37名		16	京都女子高校	47名
	21	明法高等学校	150名		9	湘南女子高校	203名		17	京都女子高校	47名
	28	高松東高校	247名		11	小川高校	32名		18	同朋高校	181名
	30	九州産業高校	222名		12	倉敷高校	362名		18	京都女子高等学校	49名
7	1	九州産業高校	159名		12	湘南女子高等学校	190名	1	17	秋留台高校	265名
	2	九州産業高校	170名		15	春日丘高等学校	318名	2	5	茅ヶ崎北陵高校	351名
	3	九州産業高校	206名		15	米沢女子高校	41名	3	2	岩谷学園高等学校	139名
9	9	広陵高等学校	76名		16	東京成徳深谷高校	107名	4	4	大阪商業大学高校	130名
	22	関根学園高校	273名		16	市ヶ谷商業高校	129名	5	5	大阪商業大学高校	127名
10	5	多摩高校	316名		16	東京成徳深谷高校	136名	5	5	大阪商業大学高校	122名
	5	桜丘女子高校	45名		16	磯子工業高校	20名	7	8	岐阜南高校	165名
	12	ノートルダム清心高	192名		16	広島文教女子大附属高	185名	8	7	岐阜南高校	135名
	13	芝商業高等学校	47名		16	聖望学園高校	154名	9	9	岐阜南高校	122名
	16	明正高校	271名		18	春日丘高等学校	165名	10	10	富山国際大附属高校	139名
	19	城星学園高校	142名		19	大泉北高等学校	237名	11	11	富山国際大附属高校	71名
	20	備前高校	116名		20	聖望学園高校	169名	11	11	富山国際大附属高校	67名
	20	日本大学藤沢高校	30名	12	1	上越高校	260名	15	15	筑波大学附属坂戸高校	145名
	21	国学館高校	113名		6	松商学園高等学校	44名	15	15	駒沢大学高校	82名
	21	立川女子高校	115名		9	帝塚山学院泉ヶ丘高校	30名	18	18	同志社国際高等学校	25名
	22	立川女子高校	114名		9	大阪産業大学高等学校	182名	22	22	青谷高等学校	209名
	22	成瀬高校	168名		9	大阪高校	226名	24	24	正強高等学校	28名
	22	成瀬高校	170名		10	大阪産業大学高等学校	233名	25	25	正強高等学校	71名
	23	立川女子高校	124名		10	大阪高校	255名	26	26	正強高等学校	47名
	23	北野高校	26名		13	明德商業高等学校	127名				

(大学・専門学校) 726名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	6	鶴目女子短期大学	100名	10	10	沖繩国際大学	20名	2	21	國學院大學	43名
5	18	大阪芸術大学	21名	9	28	梅花女子大学	38名	2	22	富田文化服装専門学校	20名
	21	琉球大学	50名		28	皇学館大学	24名	3	2	群山女子大学	99名
6	4	メリーランド大学	22名	10	2	大塚デザイン専門学校	55名	2	2	群山女子大学	87名
7	1	慈恵青戸看護専門学校	39名	4	4	法政大学	108名				

(特殊学校・その他) 985名

月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数	月	日	学校名	人数
4	28	ピーターパン保育園	16名	7	21	エミール保育園	28名	10	25	宮古養護学校	2名
	28	沖繩高等養護学校	45名		26	当蔵保育所	26名	11	9	鏡が丘養護学校	10名
5	13	那覇養護学校	8名		27	いずみ幼児園	43名	12	6	女子短附属報恩幼稚園	27名
	19	エミール保育園	40名		28	与儀城保育園	31名	1	19	当蔵保育所	10名
	28	愛泉保育園	30名		29	育伸北丘幼児園	15名	2	14	当蔵保育所	23名
6	2	若杉保育園	29名	8	3	みつわ保育園	21名	2	1	石川市保育所	20名
	10	鏡が丘養護学校	30名		4	ロバの子幼児学園	9名	24	24	沖繩ろう学校	5名
	14	当蔵保育所	14名		4	星の子学園	22名	3	2	とよむ保育所	5名
	19	慈愛幼稚園	34名		5	与儀児童クラブ	15名	2	2	むぎのこ共同保育所	3名
7	19	大育保育園	25名		10	城岳学童	10名	2	2	どろんこ保育所	5名
	19	長田児童保育所	15名		12	みどり保育園	9名	10	10	さつき幼児学園	97名
	19	城西幼稚園	84名		16	具志頭児童館	9名	10	10	こばと保育園	7名
	19	当蔵保育所	44名		24	高良学童クラブ	8名	17	17	はなぞの保育園	22名
	19	城下保育園	50名		25	城北児童クラブ	12名	22	22	みぎわ保育園	8名
	20	てだこ幼稚園	7名		25	泊児童クラブ	12名				

Ⅲ 調査研究等の活動

〔概要〕

学芸員の調査研究活動は博物館活動の重要な柱をなすものである。調査研究には、館として統一テーマを設定して取り組む共同研究と、学芸員各自の専門分野における個別研究がある。共同研究として、昨年度から2年計画で「総合調査・久米島」がスタートしたが、本年度は調査を完了させ、2年間の調査の成果を報告書（本論編・資料編）にまとめた。

また、個別研究の成果の一部は『沖縄県立博物館紀要・第20号、21号』に個人論文・報告の形で発表した。

1 調査研究

大城 将保（主幹兼学芸課長）

○総合調査・久米島（古文書）

期間 1994年6月～

機関 県立博物館

○沖縄農地制度資料調査

期間 1994年5月～

機関 沖縄県農業会議

○那覇市議会史資料調査

期間 1994年4月～

機関 那覇市議会史編集室

当真 嗣一（主幹兼教育普及課長）

○久米島のグスク調査

期間：1994年6月20日～23日

○旧中城御殿の第3次発掘調査

期間：1994年7月19日～8月20日

○中国の稲作関係遺跡調査

期間：1994年12月8日～12月13日

○久米島のグスク調査

期間：1995年2月15日～17日

○勝連町津堅島のグスク調査

期間：1995年2月28日

○奄美大島の文化財調査

期間：1995年3月14日～15日

前田 真之（指導主事）

○久米島総合調査（2年次）

期 間：1995年12月15日（木）～12月16日（金）

依頼期間：沖縄県立博物館

成 果：久米島の沖縄角力関係の資料収集を行い、論文にまとめた。

與那嶺一子（学芸員）

○久米島総合調査

期 間：平成6年6月24日～6月26日

成 果：「久米島総合調査報告」に掲載

○県内染織所在調査

期 間：平成6年8月1日～8月3日／平成7年2月5日～9日

依頼機関：県教育庁文化課

瀬名波 任（指導主事）

○教育普及書作成事業「南西諸島の動物」の調査

期 間：1994年4月～1995年2月

調査場所：トカラ列島諏訪之瀬島他

成 果：教育普及書「南西諸島の動物」に収録刊行

○久米島総合調査

期 間：1994年12月18日～12月20日

場 所：久米島

成 果：「久米島総合調査報告書」に収録刊行

髙原 建二（充指導主事）

○久米島総合調査

期 間：平成6年4月1日から平成7年3月31日

依頼調査機関：沖縄県立博物館

調 査 地：久米島

○教育普及書「南西諸島の自然」調査

期 間：平成6年4月1日から平成7年3月31日

依頼調査機関：沖縄県立博物館

調 査 地：トカラ列島、屋久島、種子島、奄美大島

○名護市動植物総合調査

期 間：平成6年4月21日から平成7年3月31日

依頼調査機関：名護市教育委員会

調 査 地：名護市一円

○名護市文化財保護調査

期 間：平成5年4月1日から平成7年3月31日

依頼調査機関：名護市教育委員会

調 査 地：名護市一円

○屋嘉比島・久米島鳥獣保護区等調査

期 間：平成6年7月26日から27日及び平成6年11月21日から22日

依頼調査機関：沖縄県環境保健部自然保護課

調 査 地：慶良間諸島屋嘉比島・久米島・座間味島・粟国島

○嘉手納基地内生物調査

期 間：平成6年1月から平成6年9月

依頼調査機関：ハワイ大学

調査地：沖縄市知花・嘉手納町

久貝 勝盛 (充指導主事)

○久米島総合調査

期 間：1994年9月15日～17日、12月26日～28日

依頼機関：県立博物館

○嘉手納基地生物調査

期 間：1994年1月～9月

依頼機関：ハワイ大学

○奄美、屋久島、種子島調査 (教育普及書)

期 間：1994年8月8日～17日

依頼機関：県立博物館

○トカラ及び鹿児島県佐多岬で渡り鳥調査 (教育普及書)

期 間：1994年10月1日～11日

依頼機関：県立博物館

○サンバ調査

期 間：1994年10月12日～13日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

○池間島の鳥類調査

期 間：1994年11月～1995年3月

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

金城 透 (専門員)

○久米島総合調査

期 間：1994年4月～1995年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：『久米島総合調査』『久米島の塩について』民俗編として発刊

○小浜島の塩についての調査

期 間：1994年9月

成 果：小浜島の塩に関する民俗資料の収集

○徳之島・沖永良部島の塩についての調査

期 間：1994年10月

成 果：徳之島・沖永良部島の塩に関する民俗資料の収集

菽尾 俊章 (学芸員)

○東御廻り関連拝所総合調査

期 間：1995年4月～3月

依頼機関：沖縄県教育委員会

成 果：『東御廻り関連拝所総合調査 (I)』にてまとめる

○久米島総合調査

期 間：1995年4月～3月

調査場所：久米島・上江洲家古文書整理

成 果：『久米島総合調査報告書』にてまとめる

○特別展「甦る沖縄」関連資料調査

期 間：1995年4月～3月

調査場所：米国、外務省、県内博物館・資料館等

成 果：特別展図録『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』にてまとめる

○琉球関係資料調査

期 間：1995年3月27日～29日

依頼機関：東京国立博物館

成 果：1996年度『沖縄県立博物館紀要』にてまとめる

2 著作論文

大城 将保

- 「資料紹介・長参謀長の書簡」『地域と文化』94.5
- 『沖縄戦・ある母の記録』（共著・高文研）
- 「人類館事件」他5項目『世界民族問題辞典』（平凡社）

當眞 嗣一

- 「都市・城館研究の最新動向－沖縄－」『中世都市研究Ⅰ』 新人物往来社 1994年9月。
- 「火矢について」『南島考古』No.14 沖縄考古学会 1994年12月。
- 「グスクの発掘」『東シナ海を囲む中世世界』 新人物往来社 1995年2月。
- 「離島の小規模グスクについて」『沖縄県立博物館紀要』第21号 1995年3月。
- 「久米島の国・県指定史跡のグスク－縄張りを中心に－」『久米島総合調査報告書』 沖縄県立博物館 1995年3月。
- 『旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査－』 沖縄県立博物館 1995年3月。

前田 真之

- 「発見に向かわせる解説－物から学ぶ」『沖縄県立博物館紀要』21号
1995年3月沖縄県立博物館
- 「久米島の沖縄角力」『久米島総合調査』1995年3月沖縄県立博物館
- 「アメリカ国立歴史博物館研修日誌」『博友』1995年3月日沖縄県立博物館友の会

與那嶺一子

- 「紅型－その色とかたち－」『紅型－琉球衣装の美』 北海道立近代美術館 平成6年7月
- 「久米島の染織資料概観」（共著）『久米島総合調査報告書』平成7年3月
- 「農商務省より独逸宛の沖縄関係物品目録について」（共著）『沖縄県立博物館紀要』第21号
平成7年3月

瀬名波 任

- 「球陽に見られる地学関係の記術について(1) 國初・雷」沖縄県立博物館紀要第21号
1995年3月
- 教育普及書「南西諸島の動物」 沖縄県立博物館 1995年3月
- 「久米島地質巡検案内」 久米島総合調査報告書 沖縄県立博物館 1995年3月

高原 建二

- リュウキュウオオコノハズクの地上営巣について（短報）
「すくみち」第6号、今帰仁村教育委員会歴史文化センター準備室 1994年6月

○大宜味村の鳥類について

大宜味村動植物総合調査報告書 1995年3月31日

○久米島の鳥類について

沖縄県博物館久米島総合調査報告書 1995年3月31日

○那覇市天久の鳥類(1)

沖縄県博物館紀要第21号 1995年3月31日

○慶良間諸島の鳥類

沖縄県博物館紀要第21号 1995年3月31日

○「最近沖縄(1994年4月～1995年3月)で目撃及び保護された興味深い鳥類(短報)

沖縄県博物館紀要第21号 1995年3月31日

○久米島におけるワシタカ類とハヤブサ類

沖縄県博物館紀要第21号 1995年3月31日

○種子島・馬毛島の野鳥観察記録

沖縄県博物館紀要第21号 1995年3月31日

○南西諸島南部地域に生息するオオコウモリ類の餌植物について

博友第4号、1995年3月31日 沖縄県博物館友の会

○博物館教育普及書「南西諸島の動物」

沖縄県立博物館 1995年3月

○河川・溪流の鳥たち

池原貞雄・諸喜田茂充編「琉球の清流」

沖縄出版 1994年6月1日

久貝 勝盛

○「マングローブの鳥」『琉球の清流』(沖縄出版) 1994年6月

○「南西諸島におけるサンバの秋の渡り」(渥美の自然) 1994年3月

○教育普及書「琉球列島の動物」『沖縄県立博物館』 1994年3月

○「世界のサンバ属」『沖縄県立博物館紀要21号』 1995年3月

○「久米島におけるワシタカ類とハヤブサ類」『沖縄県立博物館紀要21号』 1995年3月

○「種子島・馬毛島の野鳥観察記録」『沖縄県立博物館紀要21号』 1995年3月

○「池間島の鳥」『平良市総合博物館紀要第2号』 1995年3月

金城 透

○「久米島の塩について」『久米島総合調査』 1995年3月

萩尾 俊章

○「パーントゥ」『日本の「鬼」総覧』 新人物往来社 1995年1月5日

○「馬天御嶽」『東御廻り関連拝所総合調査(Ⅰ)』 沖縄県教育委員会 1995年3月

○『なぜなぜ首里城～首里城普及書～』(財)海洋博覧会記念公園管理財団 1995年3月31日

○「村落の祭場」他『北中城村史 民俗編』 北中城村役場 1995年3月

○「久米島の家譜、位牌にみる系譜観—上江洲家史料を中心にして—」『久米島総合調査報告書』 沖縄県立博物館 1995年3月

○新城さやか、共著「沖縄の戦後関係資料と沖縄系移民資料に関する調査報告」『沖縄県立博物館紀要』 沖縄県立博物館 1995年3月31日

3 講演等

大城 将保

- 講座「郷土の歴史」1994年4月5日
依頼機関 沖縄県自治研修所
- 講演「沖縄戦」1995年3月6日
依頼機関 NHK福岡放送局
- 講演「沖縄戦と戦後処理問題」1994年9月14日
依頼機関 自由大学
- 講座「沖縄戦を生き残った人びと」1994年6月22日
依頼機関 島マス塾記念塾

眞 嗣一

- 「沖縄のグスクについて」 1994年5月13日
依頼機関：国立文化財研究所埋蔵文化財センター
- 「グスクめぐり」 1994年7月3日
依頼機関：西原町小波津団地婦人会
- 「首里城と沖縄のグスクについて」 1994年8月27日
依頼機関：首里城公園友の会
- 「南部のグスクめぐり」 1994年8月27日
依頼機関：具志川市教育委員会
- 「中部のグスクめぐり」 1994年11月11日
依頼機関：糸満市教育委員会
- 「北部のグスクめぐり」 1994年12月18日
依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 「沖縄本島遺跡めぐり」 1995年2月11日～12日
依頼機関：古代東アジアを考える会
- 「南部のグスクめぐり」 1995年2月26日
依頼機関：西原町教育委員会

前田 真之

- 「知られざるタイのムスリム」 1994年6月2日(木)
依頼機関：浦添美術館
- 「国際化時代とこれからの金武町」 1994年9月6日(火)
依頼機関：金武町
- 「ボランティア活動について」 1994年12月27日(火)
依頼機関：県教育庁生涯学習振興課主催 長寿学園

與那嶺一子

- 「沖縄の染めと織り」
日 時：平成6年7月20日
依頼機関：生涯学習振興課
備 考：教育ボランティア養成講座
- 「紅型の楽しみ方」

日 時：平成6年8月15日

依頼機関：北海道立近代美術館

○鑑賞入門 琉球の芸術「琉球の染め」

日 時：平成7年2月13日

依頼機関：若狭公民館

瀬名波 任

○「チャレンジエアプレーン」

期 日：1994年5月8日

依頼機関：全国科学館連携協議会

○「親子星空教室」

期 日：1994年5月7日・5月21日・6月4日・6月18日・7月2日・7月16日・8月6日・
8月13日・9月3日・9月24日・10月1日・10月15日・11月5日・11月12日・
12月3日・12月17日・1月7日・1月21日・2月4日・2月18日

依頼機関：那覇市久茂地公民館

○遊びの教室「親子紙ひこうき教室」

期 日：6月25日

依頼機関：具志頭村具志頭児童館

○「星空教室」

期 日：7月20日

依頼機関：浦添市内間児童館

○「七夕観望会」

期 日：8月11日・8月12日

依頼機関：那覇市久茂地公民館

○夏休み体験教室「星の観測会」

期 日：8月27日

依頼機関：当博物館夏休み体験教室

嵩原 建二

○バードウォーク野鳥講演会講師

期 日：平成6年5月12日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：神原小学校

○バードウォーク探鳥会講師

期 日：平成6年5月14日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：漫湖鳥獣保護区

○講演会講師

期 日：平成6年5月19日

依頼機関：那覇地区中学校理科研究会

場 所：ニューオーシャンホテル

○自然観察会講師

期 日：平成6年7月21日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：玉城村立百名小学校

○野鳥観察学習会（職員研修）講師

期 日：平成6年7月22日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：沖縄市立北美小学校

○野鳥講演会講師

期 日：平成6年11月1日

依頼機関：沖縄県教育庁那覇教育事務所

場 所：那覇市中央公民館

○探鳥会講師

期 日：平成6年11月8日

依頼機関：沖縄県教育庁那覇教育事務所

場 所：那覇市漫湖公園

○博物館文化講座「野鳥に親しむ」野鳥観察会講師

期 日：平成6年11月19日

依頼機関：沖縄県立博物館

場 所：那覇市漫湖干潟

○探鳥会講師

期 日：平成6年11月20日

依頼機関：北谷町中央公民館

場 所：北谷町桑江・沖縄市

○移動博物館探鳥会講師

期 日：平成6年12月3日

依頼機関：沖縄県立博物館・座間味村教育委員会

場 所：座間味島

○野鳥観察会講師

期 日：平成6年12月14日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：金武町億首川（恩納村立山田中学校）

○環境教育研修会講師

期 日：平成6年1月25日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

場 所：名護養護学校

久貝 勝盛

○「森—そのしくみと働きについて」

期 日：1994年7月26日

依頼機関：沖縄県農林水産部林務課

○「山の自然観察会」

期 日：1994年7月31日

依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課

○「サンバの渡り」

期 日：1994年8月4日

依頼機関：NTT

○「自然界のしくみ」

期 日：1994年8月24日

依頼機関：沖縄県生涯学習振興課

○「Autumnal Migration of The Gray-faced Buzzard-eagle in the South West Islands of Japan」

期 日：1994年9月21日

依頼機関：The Okinawa Photography Club

○「野鳥観察」

期 日：1994年11月8日

依頼機関：那覇教育事務所

○「野鳥に親しむ」

期 日：1994年11月19日

依頼機関：沖縄県立博物館

○「野鳥の話」

期 日：1994年11月22日

依頼機関：浦添市てだこ学園

○「サンバの渡り」

期 日：1994年11月26日

依頼機関：神森中学校

○「渡りと越冬地におけるサンバと人」

期 日：1994年12月3日～4日

依頼機関：安塚の自然と歴史の会（茨城県）

○「野鳥観察会」

期 日：1994年12月14日

依頼機関：山田中学校

○「サンバの渡り」

期 日：1994年12月15日～16日

依頼機関：教育センター

○「自然観察」

期 日：1995年2月24日～25日

依頼機関：沖縄県教育委員会

金城 透

○糸満の海とくらし

期 日：1994年8月17日

依頼機関：生涯学習振興課

備 考：ボランティア養成講座

○民俗展示室の見方「民具について」

期 日：1994年10月1日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

○「塩の文化」

期 日：1995年3月18日

依頼機関：沖縄県立博物館

備 考：247回 博物館文化講座

菟尾 俊章

○「泡盛の歴史と文化」

期 日：1994年4月19日

依頼機関：NTT職員研修会

○「沖縄の歴史と文化」

期 日：1994年4月27日

依頼機関：琉球銀行新入行員研修会

○「沖縄の歴史と民俗」

期 日：1994年5月24日

依頼機関：沖縄製菓業種職員研修会

○「沖縄の門中」

期 日：1994年10月29日

依頼機関：大城門中会

○「泡盛の歴史と文化」

期 日：1994年11月19日

依頼機関：日本家政学会九州支部大会

○「歴史の道を歩く—末吉宮参詣道—」

期 日：1995年1月21日

依頼機関：沖縄県立博物館

○「首里の歴史の道」

期 日：1994年2月23日

依頼機関：那覇市小学校図書司書研修会

○「祖先祭祀と女性」

期 日：1994年2月18日

依頼機関：倫理研究会沖縄支部

4 職員研修

平成6年度博物館指導者研究協議会に参加して

学芸課 瀬名波 任

日本博物館協会主催の平成6年度博物館指導者研究協議会（自然史部門）が、平成7年1月12日（木）・13日（金）の日程で千葉県立中央博物館において開催されたが、参加する機会を得たのでその概要を報告する。

1月12日（木）は、12：20～13：00の受付の後、中央博館長挨拶、中央博概要説明（中池副館長）を受け、寺村普及課長の案内で博物館を見学した（展示室は一部だけ）。私は、自然史だけでこれだけの面積を取った館は、国立科学博物館以外に知らないの、展示の質・種類共に圧倒されてしまった。また、普通見られる地球誕生の歴史からではなく、千葉県の地史の始まりからの展示であったのも目を引いた（後で意識してそのような展示にしたとの説明があった）。企画展示室は企画展の規模に合わせスライディングウォールやスパンごとに区切って利用できるようになっている（その時は2スパンで合同企画展「東京湾 江戸前ずしの語るもの」を行っていた）。また、収蔵庫の大きさも将来を見据え大きく取っており、更に天井の高いところは二段にして軽い物は上にも収蔵できるようになっていた（新館に向けて、沖縄県立博物館でも収蔵庫が大きくとれるよう努力する必要がある）。その後沼田眞館長による「生態学と環境問題」というテーマの講演があった。その中で、環境基本法に自然保護が出てこない等の日本の自然保護の立ち遅れから説き起こし、現在日本では秋の七草で有名なホトケノザすらほとんど見る事が出来ないという現状を指摘された。また、5つの環境問題として、人間居住環境・天然資源（鯨等）・環境汚染（公害）・開発と環境・教育と情報がある事や、持続可能な開発・利用・管理が必要な事を述べられた。

次に研究協議に入り、吉村光敏中央博地学研究科長の展示動線調査の実例をベースとして話し合いがなされた。動線調査のおもしろさや難しさは分かったが、我が館の自然史室のような小さな展示室では単純な動線にしかならないと思われる（他の館からも同様な意見があった）。懇親会も17：50頃から行われ、各地の博物館の情報が得られた。

1月13日（金）は9：30から上野輝彌国立科学博物館地学研究部長の話を中心として行われた。展示においてパネルがあまり見られていない事や、永久保存・研究等の外から見えない部分の基本がまだ出来ていないという指摘があった。ドイツ等外国の様子の紹介や博物館と大学の連携の必要性を述べられた。

予定では午前中で解散の予定であったが、希望者を募って（ほとんどの人が参加）船田池を中心とした生態園で野鳥その他の生物を観察し、その後館内を見学をすると閉館の16：30を早くもまわってしまい名残を惜しみながら千葉中央博を後にした。しかし、これだけお金のかかった施設が、民俗や歴史の博物館と共に県立の博物館施設はすべて入館無料というのはうらやましい限りであった。

平成6・7年度博物館職員講習（平成6年度分・自然科学系コース）を受講して
学芸課 嵩原健二

平成6・7年度博物館職員講習（平成6年度分）は、6月2日から6月24日の23日間にわたって、東京上野の国立教育会館社会教育研修所を主会場に実施された。同講習会の自然科学系コースを受講したので、その概要について報告したい。

今回の研修における主な科目や単位数は、共通科目の「博物館学」として履修する「博物館概論」18時間と、各系選択コースとして設けられた「博物館資料の収集・保管及び調査研究」で履修する30時間、特別講義の4時間の合計52時間と、「社会教育概論」（共通）1単位15時間、自然科学史（選択）15時間の合計6単位82時間におよんだ研修であった。

博物館概論では、教育会館において博物館学、社会教育概論など講義を主体とした内容であった。その主な項目は、博物館の歴史、目的、機能、運営、社会教育行政、博物館の現状と課題等、幅広く多岐に渡る内容であり、あらためて博物館学芸員の扱う内容の広さや使命・役割の大きさを感しました。

選択コースとして設置された自然科学系コースでは、国立科学博物館や同館の新宿分館に研修場所を移動して研修が行われた。特に新宿分館における研修は、実際に動物、植物、地学に関する資料の収集・調査研究に携わっておられる研究員から、直接的に動物、岩石、骨格等標本資料を扱い、その収集・分類・調査研究等細部におよぶ実習を主体とした研修内容で、大きな示唆を得ることができました。また、科学博物館や同新宿分館における展示の実際についても、学ぶ事が多く、岩石や植物化石などの実物資料やその実物を忠実に再現したレプリカ資料をふんだんに活用した展示には目を見はるものがありました。

さらに博物館学としての「博物館概論」にかかわる現地研修が、6月7日から8日の1泊2日の日程で、茨城県つくば市にある国立教育会館筑波分館に移動して実施されました。初日は工業技術院地質標本館を見学し、展示の実際について学ぶことができ、特に同館の正面玄関に設置されたクランク構造の実物レプリカによる地層展示には、印象深いものがありました。

2日目は国立科学博物館筑波実験植物園を尋ね、世界中から収集され、温室で栽培されている植物の見学と野外の植物園における植物観察を行いました。また、選択コースとして千葉県我孫子市の鳥の博物館を訪問し、自然史系博物館の展示の実際や資料保管等について学ぶことができました。この宿泊研修を通して、各博物館における実際の展示活動や資料収集と保管等について、見聞を広げることができました。

以上がおおよその研修活動の内容であるが、この研修会を受講して、担当している自然史の分野だけでなく、博物館の歴史や変遷、そして、博物館の役割と活動、展示活動の現状と課題等幅広い視野で知識や見聞を広げることができた点は、博物館職員として業務を推進していく上で、大きなささえになるものと思います。

IV 展示活動

1 常設展

常設展は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマに、歴史、自然史、美術工芸、民俗の4分野で構成されている。

まず前庭には、亜熱帯の樹木や草花に囲まれて、旧円覚寺楼鐘（重文）や高倉などの屋外展示がある。敷地は中城御殿（尚家別邸）の屋敷跡で、独特の工法で積まれた石垣は前方の龍潭や首里城の眺めと調和して王朝時代の姿をしのばせる歴史的景観をなしている。

ロビーにはいると、首里城正殿の模型を中心に、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）や正殿大龍柱の頭部、王朝時代の扁額などによって「琉球王国」のイメージを象徴的に展示してある。

1階には、「歴史」展示室（第1室）と「自然史」展示室（第2室）がある。

第1室「歴史」は、旧石器時代から現代までの沖縄の歴史を通史的な流れにそって展示してある。港川人に代表される旧石器時代、そして九州縄文文化の南下に刺激されて独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代の展示がみられる。12世紀にはいると、地方の支配者である按司が群雄割拠してグスク時代がはじまる。やがて15世紀初頭には沖縄は統一されて琉球王国が誕生する。琉球は大交易時代の国際交流によって王朝文化の花を咲かせるが、やがて薩摩の支配下にはいり幕藩体制にくみこまれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和の世相、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまで沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

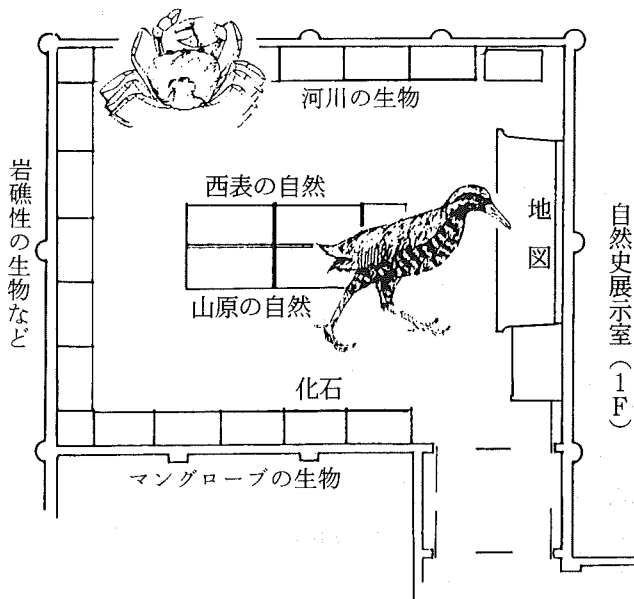
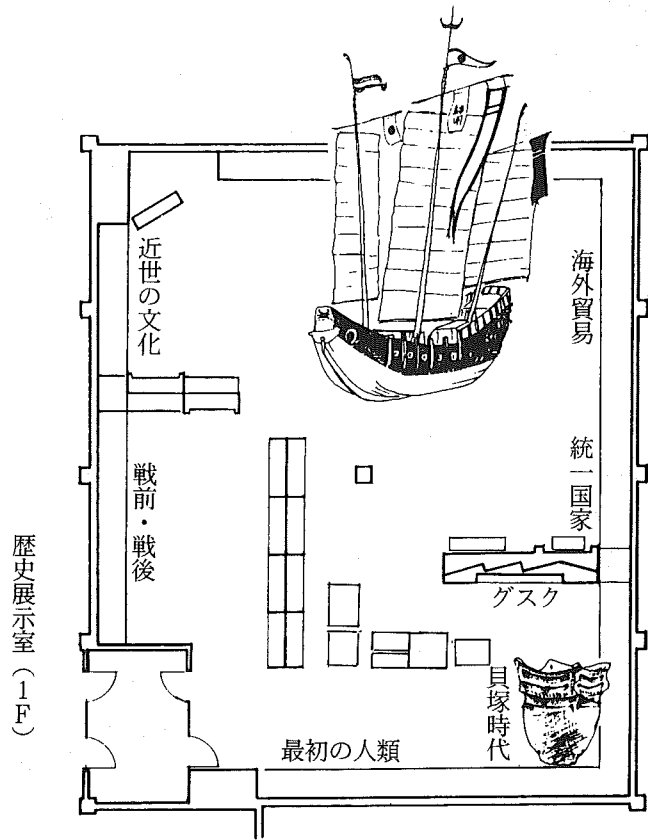
第2室「自然史」は、琉球列島の成立からはじまって亜熱帯地域にひろがる沖縄の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナゴコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほどに多様で貴重な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理して標本や写真で紹介している。とくに大自然の宝庫といわれるヤンバル（山原・沖縄本島北部）と西表島について特設コーナーをもうけて展示してある。

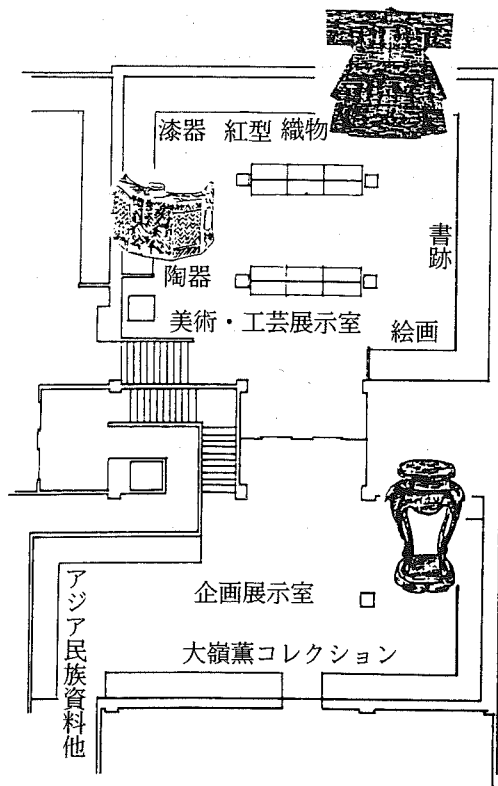
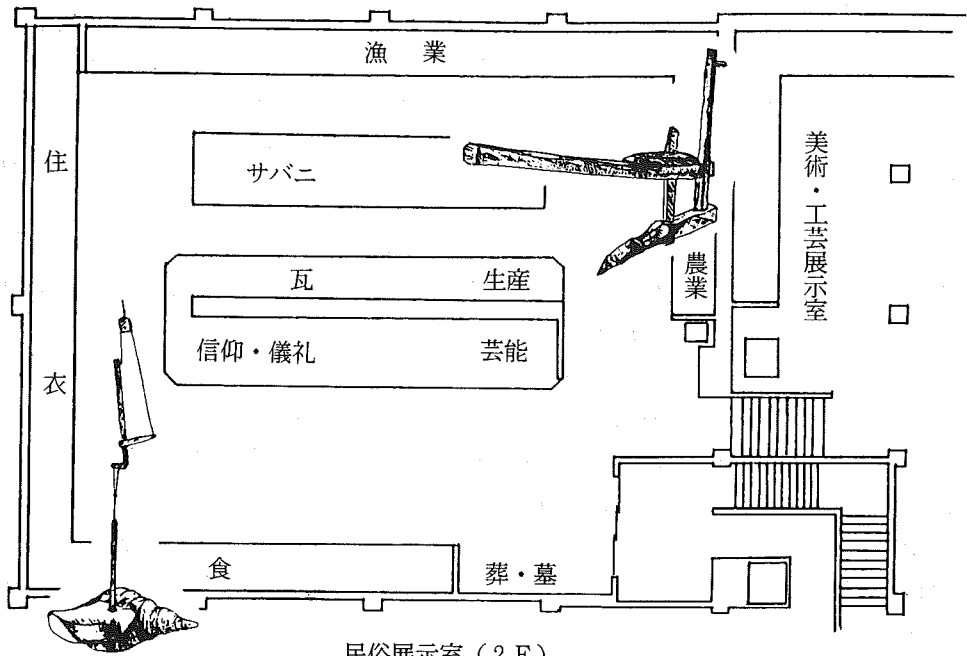
スロープ壁面の写真展示に導かれて2階にのぼると、「美術工芸」展示室（第3室）と「民俗」展示室（第4室）がある。途中の2階ロビー（企画展示室）では企画展なども催されるが、ふだんは「大嶺薫コレクション」と「東南アジアの染織」などが展示してある。（同室は随時展示替えが行われる）

第3室「美術工芸」には、琉球王朝文化の輝きをしのばせる、絵画、書跡、染織、漆器、陶器、などが展示されている。中国の影響をうかがわせる王府時代の絵画や書跡、緋・びん型・花織などの独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦などの高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋の琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流によって生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室「民俗」は、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などのコーナーに整理分類して展示してある。これらの生活用品を通して、昔の人びとが工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。

なお、特別展または大規模な企画展の期間中は常設展の一部を撤去して特別展示室に用いる場合がある。





2 特別展

「子どもの世界」(担当:萩尾俊章・與那嶺一子)

会 期:1994年7月19日(火)～8月31日(水)

会 場:沖縄県立博物館1階歴史展示室、スロープ壁面、2階企画展示室及び美術工芸室

【趣 旨】沖縄の子どもにまつわる諸資料を一堂に集め、学校社会ではとらえきれない伝統的な子どもの世界を再現した。考古資料にみる子ども、歴史資料や絵図・絵画にみえる子ども、祭りや人生儀礼など民俗行事にみる子ども、子どもの衣装、玩具、過去と現代の遊び、わらべ歌、絵本や漫画にみる子どもの世相、写真・映像資料にみる子どもなど様々な視点から子どもの世界を展開し、この特別展を通して、沖縄地域の伝統的な子どもたちの世界をたどり、現代の子どもたちならびに子どもたちをとりまく社会・環境をあらためて考える機会とした。

【開催形式】主催は沖縄県立博物館とし、(社)沖縄県PTA連合会と沖縄県子ども会育成連絡協議会が後援し、沖縄玩具伝承友の会、沖縄県子どもの本研究会、沖縄キリスト教短期大学児童文化研究サークル、沖縄国際大学口承文芸研究会、(株)沖縄フジカラーが協力し、マスコミ各社のNHK沖縄放送局、琉球新報、沖縄タイムス、琉球放送、沖縄テレビ、FM沖縄、ラジオ沖縄、週刊レキオ社が協賛し実施した。また、展示資料に関しては東京国立博物館、日本民芸館、台東区立下町風俗資料館をはじめとする県外の博物館・資料館をはじめ、県内は浦添市美術館、平良市総合博物館、八重山博物館ほか約30の機関の協力を得た。

期間中、約2万人余の入館者があり、大盛況のうちに終了した。子どもの入館者が多かったのが特徴で、親子連れて賑わった。

【展示コーナー及び資料】展示は、子どもが誕生してから成長するまでの過程を様々なお祝い・儀礼をとおしてとらえる〈子どもの誕生と成長〉、沖縄各地に受け継がれている祭りに子どもたちが参加する祭りを紹介する〈祭り子どもたち〉、歴史史料や絵図資料、絵本・漫画などに記述されたり、描かれたりする子どもたちの姿をとおして時代による沖縄の子どもたちの様相をみる〈むかしむかしの子どもたち〉、赤子や子どもたちが身につける衣服等の変遷をたどる〈子どもの衣服〉、昔と現在の子どもの遊びの変化をたどる〈子どもの遊び-昔と今-〉、張り子や凧などの伝統的な子どもの玩具を展示する〈子どもの玩具さまざま〉、戦前から現在までの写真にみえる子どもたちをさぐる〈写真にみる子どもたち〉を設定した。その他に、「むかしの遊び道具を使ってあそぼう!」などの実際にさわって遊ぶコーナー、映像にみる子どもの姿などの特別コーナーを設けた。

総展示資料数は館所蔵及び借用資料を含めて約1500点余に及んだ。

① 子どもの誕生と成長

赤ちゃんの誕生祝いから、命名式、一年目の生年祝い、十三祝いなど成長する各段階でおこなわれるお祝い・儀礼で用いられる衣裳や道具類を展示した。

② 子どもの一日

伝統的な子どもたちのふだんの生活の様子をジオラマ縮小模型で再現した。

③ 祭り子どもたち

沖縄県の各地でおこなわれる祭りにおいて、子どもたちが祭りの中で担っている役割を紹介した。大里村古堅のミーミンメー、国頭村安波のシヌグ、宮古平良市狩侯のパーントゥ、多良間島の八月踊り、西表島の豊年祭など種々の祭りを取り上げた。

④ 歴史の中の子どもたち

古文書などの歴史史料、絵画をはじめとする絵図資料、漆器などの美術工芸品、さらには子ども向けの絵本・漫画に記述されたり、描かれたりする子どもたちの姿をとおして、時代ごとの世相を反映した子どもたちを紹介した。

⑤ 映像にみる子どもたち [映像放映コーナー]

宮古の佐渡山安公氏撮影の宮古の子どもジジ、大里村古堅のミーミンメー、祭りに参加する子どもたちを記録に取めたビデオ、沖縄国際大学口承文芸研究会所蔵の「民話の語り」のビデオを定期で上映した。

⑥ 子どもの衣服

赤ちゃんのおしめやおくるみ、与那国のクウミヤなどの背負い布、戦後の米軍のHBT利用の子ども服、さらには紅型や芭蕉などの子ども衣裳などを展示した。

⑦ 写真にみる子どもたち

県立博物館、今帰仁村歴史文化センター、具志川市史編集室、竹富町史編集室などが所蔵している写真資料を展示し、戦前・戦後の変化をたどった。スロープ正面の大型写真パネルは、現在子どもたちに人気のアニメキャラクター・セーラームーンを展示し、世相を表現した。

⑧ 子どもの遊び—昔と今—

沖縄の子どもたちの伝統的な遊び、例えばコマまわし、ギッチョウ、Sけん、カジマヤー(風車)など自然物や道具を使ったり、あるいは道具を使わなかったりする遊びを実物をまじえ紹介した。

⑨ むかしの遊び道具を使ってあそぼう! [遊び体験コーナー]

⑧の道具を実際に使って遊ぶコーナーとした。

⑩ 子どもの玩具さまざま

伝統的な玩具の張り子、沖縄各地の凧、八重山のフウタン(風弾)から、めんこ(パッチン)やビー玉などの戦後の遊び、さらには現代の子どもたちに人気のあるキャラクター商品までを展示した。

【関連催物等】 毎月の博物館文化講座の一環として本展示会にあわせて、特別文化講座を8月7日に開催した。講師は立教大学教授の青柳まちこ氏で、アジア・太平洋地域の子どもの遊びについて比較文化論的にわかりやすく講演して頂いた。そのほか、夏休み「歩く、見る、作る」教室でスケッチ、星の観察会、遊具をつくるを実施した。夏休み親子シアターで子ども向けアニメを上映した。

また、今回の展示会ではロビーにミニ空間をつくり、そこで子どもの本研究会をはじめとする各団体による絵本の読み聞かせ、人形劇、フィンガーアクション、紙芝居、昔語りと素話し、などを期日設定で催し、子どもたちに人気で関心を集めた。

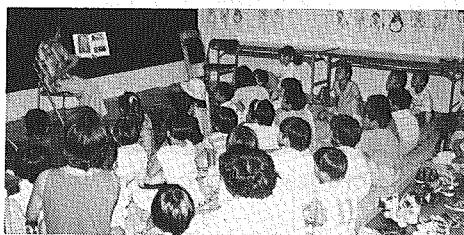
【入館料金】

一 般 500円(400円)

大学・高校生 200円(160円)

中学・小学生 100円(80円)

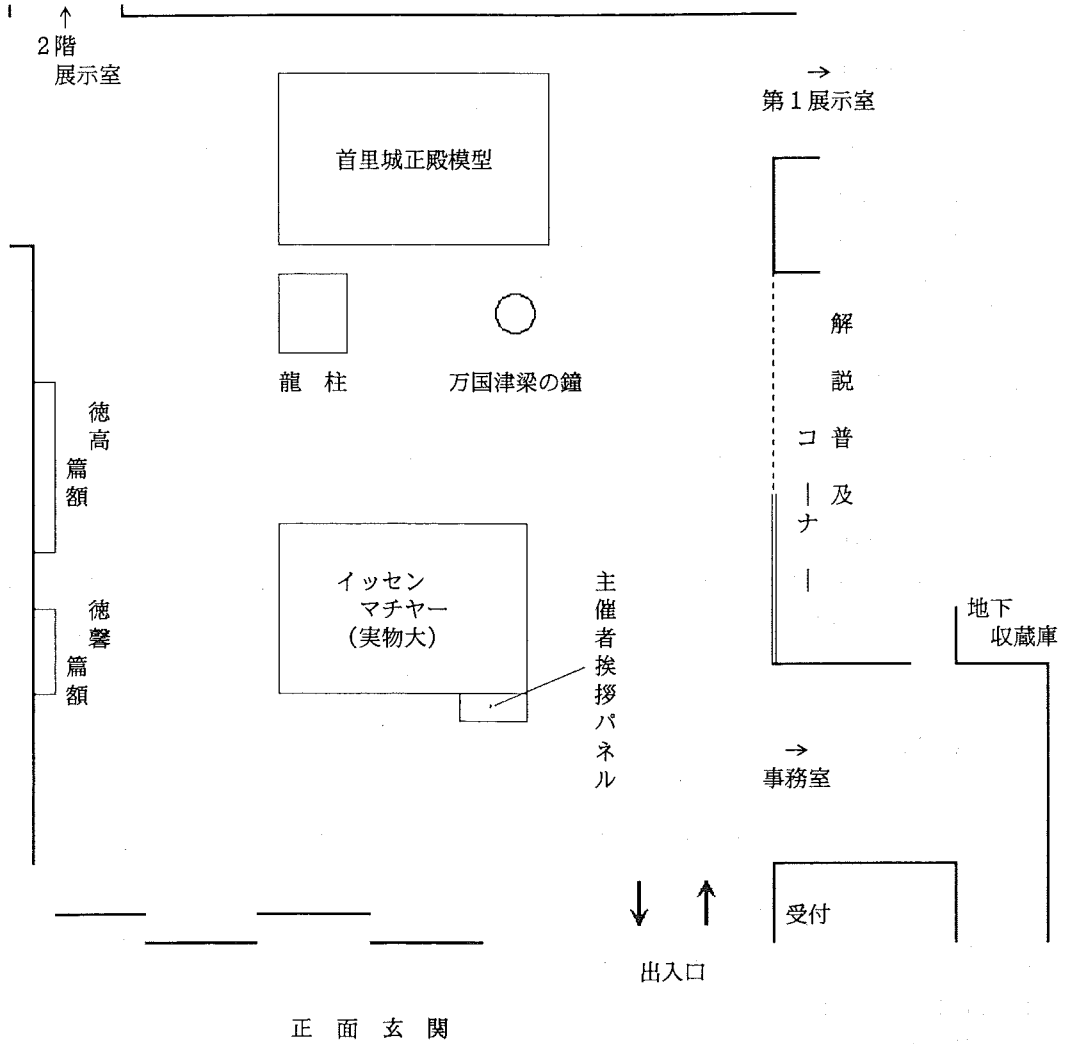
()の料金は20名以上の団体割引



絵本の読み聞かせ

子どもの世界展 展示基本レイアウト

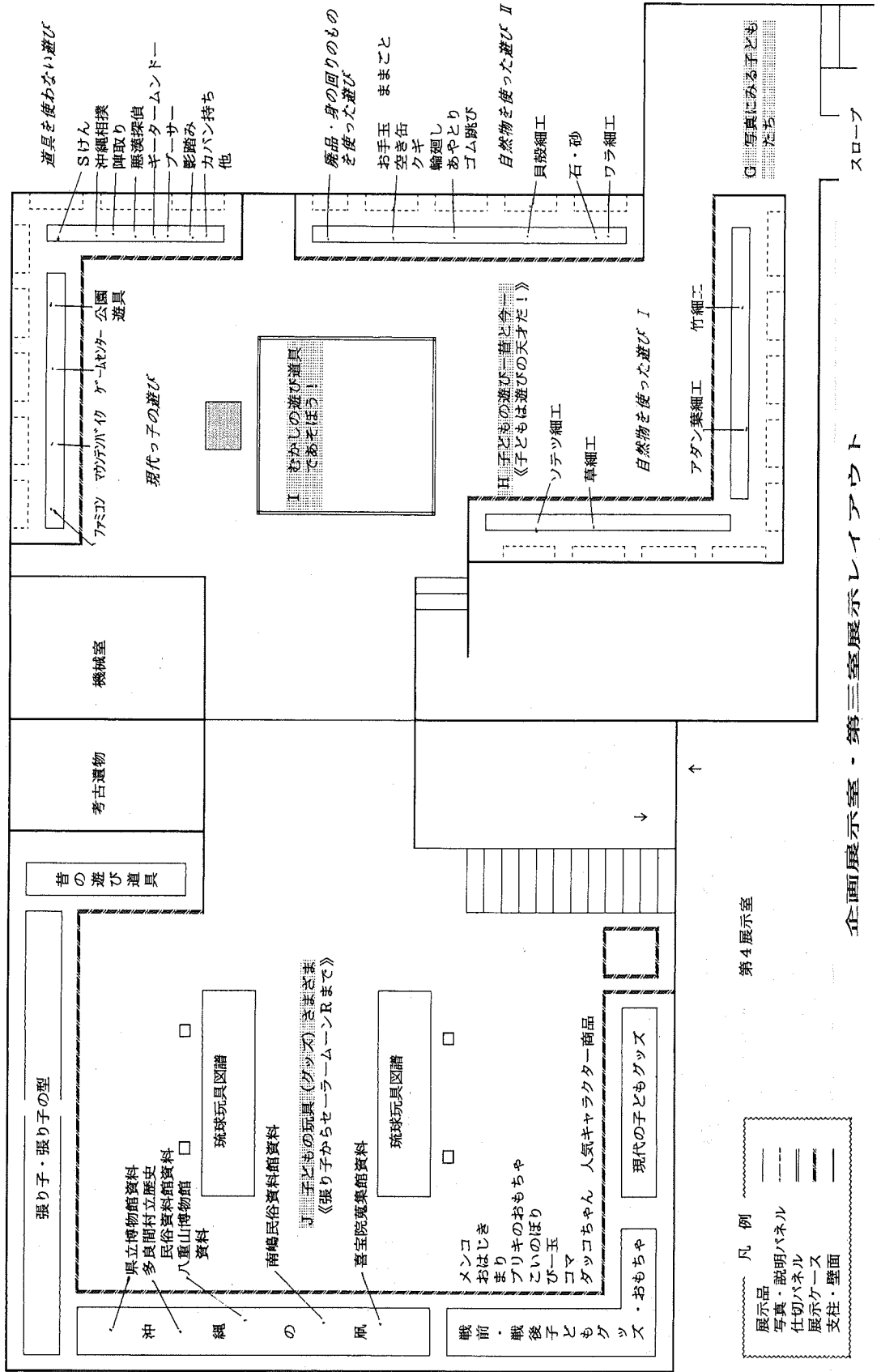
ロビー（アプローチ）展示レイアウト



人気を集めたイッセンマチャー



むかしの遊び道具であそぼうのコーナー



3 企画展

(1) 平成5年度「新収蔵品展」(担当：久貝勝盛、與那嶺一子)

会 期：平成6年5月10日(火)～5月29日(日)

会 場：企画展示室及び第三展示室

〔開催趣旨〕「新収蔵品展」は、前年度に寄贈され、収集し、購入された資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動に役立てることを目的として実施するものである。

〔展示内容〕東京在住の大嶺チヨ氏から寄贈された「麻紺地総緋着物(宮古上布)」をはじめ、那覇市在住の東恩納道子氏から「芭蕉バンジョウ緋着物」、那覇市在住の兼島善吉氏から「絹薄茶地流水に菊水様胴衣」、大宜味村在住の平良敏子氏から「芭蕉木綿紺地綾着物」などの染色資料、歴史資料として読谷村在住の伊藤勝一氏から「徴兵出頭状(嶺井政真宛)、沖縄市在住の上原源松氏から「大東亜戦争従軍記章」など、那覇市在住の仲井間宏氏から「三線(銀製)」の民俗資料、那覇市在住の田名芳子氏から「香炉」の陶器資料、東京在住の中嶋仁氏から「亀甲名刺受」の漆器資料等が展示された。

購入資料として、比嘉華山作の「琉球風俗画帖」の美術資料、「明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書(レプリカ)」の歴史資料を収集し展示した。

〔展示目録〕

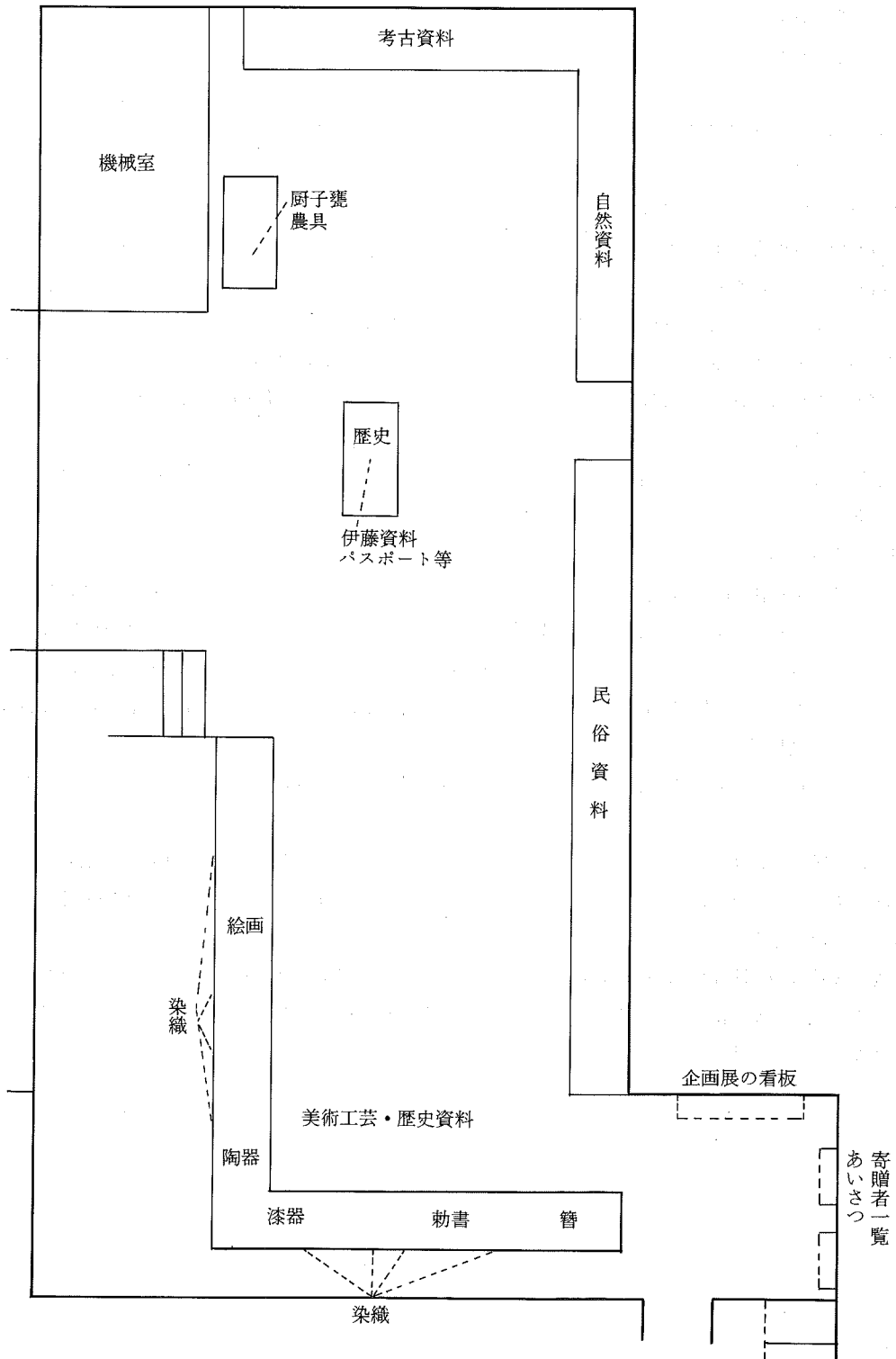
寄贈の部：徴兵出頭状・日本渡航証明書・大東亜戦争従軍記章・八坂神社御輿洗衾り物繪容・時局防空必携・規格1号住宅模型(1/500)・シンメナービ・三線(銀制)風弾・除草機・ミソガメ・香炉・亀甲名刺受・芭蕉バンジョウ緋着物・木綿灰色地経縞に緯緋着・木綿紺地格子に緋花織頭巾・絹薄茶地流水に菊文様胴衣木綿黄色地牡丹文様紅型風呂敷・芭蕉コーザー銭玉着物等

購入の部：聞得大君御殿雲龍黄金簪(レプリカ)・明孝宗より琉球国王尚真への勅書(レプリカ)・ミナマイシガメ他・琉球風俗画帖・芭蕉朱地縦縞上衣等

なお、展示に際してパンフレット「平成5年度新収蔵品展」を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。同目録は、「沖縄県立博物館年報 No. 26」にも掲載されている。

〔開会式及び感謝状授与式〕平成6年5月10日(火)午前10:00館長室にて、寄贈者(平良敏子他4名)への感謝状贈呈式を行った。その後午前10:30に企画展示室入り口で開会式及びテープカットが行われ、企画展・平成5年度「新収蔵品展」が開会した。

「平成5年度新収蔵展」企画展示室レイアウト



4 移動博物館

第18回移動博物館

会 期：平成6年12月2日(金)・3日(土)

会 場：座間味村立座間味小中学校体育館

観覧料：無 料

主 催：沖縄県立博物館・座間味村・座間味村教育委員会

〔趣旨〕本県はわが国最南端に位置し亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし歴史的に日本本土や中国、東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の歴史と文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第18回は座間味村において開催した。

〔内容〕〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈自然観察会〉で構成した。展示は考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の5分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた。また特に今回は、座間味村関係の野鳥標本を多く展示した。展示会場にビデオ放映コーナーを設け沖縄の伝統工芸や自然に関するビデオを放映した。文化講座は座間味離島振興総合センターで開催した。

〔ビデオ放映〕「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラパゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

〔文化講座〕日時：12月2日(金)午後7時～9時

場所：座間味離島振興総合センター

対象：学生、一般

演題：「沖縄の鯨類」

講師：内田詮三(国営沖縄記念公園水族館 館長)

〔自然観察会〕日時：12月3日(土)午後1時～4時

対象：小・中学生

講師：嵩原建二(県立博物館 指導主事)

〔入場者数〕展示会 115人
文化講座 68人
バードウォッチング 25人 合計508人

〔予算〕国庫補助を得て、総額5,276,000円。内訳は、諸謝金(22,000円)、旅費(773,000円)、需用費(815,000円)、通信運搬費(3,666,000円)。

〔展示品目録〕

【考 古】

港川人想定復元全身像、港川人頭骨(複製)、外耳土器(平久保遺跡出土)、大山式土器(国指定史跡大山貝塚出土)、青磁碗・皿(国指定史跡首里城跡出土)、古座間味貝塚出土一括遺物、青磁

碗（国指定史跡勝連城跡出土）、石斧（沖縄県内出土）

パネル

黒潮の文化、具志川城想定復元鳥瞰図、座間味村のグスク縄張図、座間味村のグスク写真、座間味貝塚の遺構、座間味貝塚の遠景、首里城跡（写真）、勝連城跡（写真）、ゴホウラ貝の出土状況、貝の道、堅穴住居跡、渡具知東原遺跡遠

【歴史】

拓本・パネル

国王頌徳碑

ようどれの碑文（裏・表）

古銭類古銭類

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豊通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豊通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、乾隆通宝、咸字元宝、天聖元宝、鳩目銭、寛永通宝、金円世宝・世高通宝・大世通宝

勾玉類勾玉類

リング（8個連）、リング（8個連）、リング（10個連）、リング（18個連）、リング（ビーズ）、リング（小勾玉にビーズ付き）

印章

尚育王の印

金工品

かんざし（一括）、聞得大君雲龍黄金簪（複製）

典籍類

おもしろさうし（複製本）、中山世鑑（複製本）、沖縄志琉球人行列記、琉球三省并三十六嶋図朝鮮琉球全図、江戸上行列（瓦版）

その他

尚寧王妃墓誌、ランドサット沖縄諸島（写真）

写真パネル・～戦前の沖縄～

〈鎌倉芳太郎撮影〉

初代尚円王御後絵、13代尚円王御後絵、首里城正殿、円覚寺仏殿、首里那覇全景

〈坂本万七撮影〉

円覚寺全景、識名園、壺屋風景、壺屋の陶房、ハンタン山、青空教室、木臼づくり、芋びき、葬式行列、魚売り風景、カメを売る店、墓（那覇辻原）、首里城正殿の欄干、サーターグルマ、竹製品を運ぶ荷馬車、那覇東町の布町、風呂敷糊引き（那覇久茂地）

泡盛関連写真

八重山風俗図、タイ米の輸入、黒麹菌の孢子、酵母菌、シンセキと洗米、米蒸しの作業、麴作業（麴菌を混ぜる）、麴作業（カチャイ）、麴作業（ティーミ）、もろみのかくはん、もろみを蒸留器へ移す、蒸留器、瓶詰め作業、琉球泡盛、泡盛の鑑評会（現在）、

さまざまな泡盛（現在）

【自然史】

古生物

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）恐竜

の卵の化石

沖縄の生物

〈写真パネル・～天然記念物～〉

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、ナミエガエル、ホルストガエル、イボイモリ、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、カンムリワシ、ノグチゲラ、ケラマジカ、イリオモテヤマネコ、ダイトウオオコウモリ

〈写真パネル・～野鳥～〉

コチドリ、バン、セッカ、コサギ、シロハラクイナ、メジロ、ヒヨドリ、カワセミ、クロサギ、セイタカサギ、ズアカアオバト、イソヒヨドリ、サンコウチュウ、ササゴイ、ハクセキレイ、ミフズラ、ダイシャクサギ、タゲリ、ムナグロ、リュウキュウヨシゴイ

剥製標本

ゴイサギ、タゲリ、ヒクイナ、アカショウビン、シロハラクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、ヤマサギ、カルガモ、ズアカアオバト、コガモ、サンコウチュウ、シロハラ、カラスバト、キンバト、ヨタカ、コノハズク、オオコノハズク、トラツグミ、オリオオコウモリ、サンバ、ハブ、イリオモテヤマネコ

くじら関係資料（名護博物館資料）

鯨類骨格標本、鯨類に関するパネル

【美術工芸】

漆器

黒漆山水楼閣螺鈿六角食籠

陶器

〈壺屋焼〉

緑釉嘉瓶、赤絵徳利、アンダガーマ、釘彫抱瓶、飴釉流なまこ釉香炉、なまこ釉からから、緑釉花卉型盛皿、具須絵山水竹文筒花生

〈湧田焼〉

鉄絵碗

絵画

二十四孝図（四曲半双）、琉球風俗画帖（比嘉華山）

彫刻

玉陵石彫獅子（レプリカ）1対

書跡

雪中子日（宜湾朝保書）、恋妨学問（宜湾朝保書）、清風（古波蔵爾方書）

織物

芭蕉つなぎあわせ子ども着、木綿紺地花織ティサージ、御絵図（復元）

紅型

染分地山波に鶴松梅文様子子ども着、紅型型紙

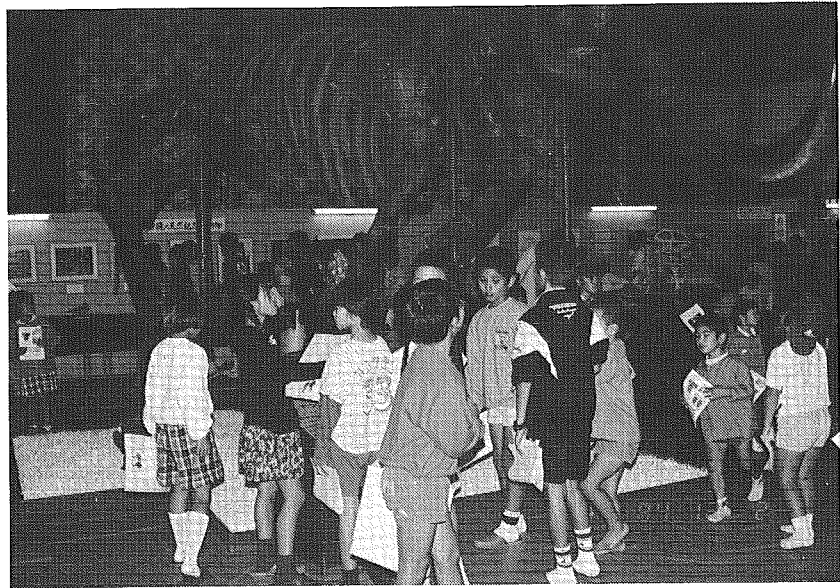
【民俗】

沖縄の祭り〈パネル〉

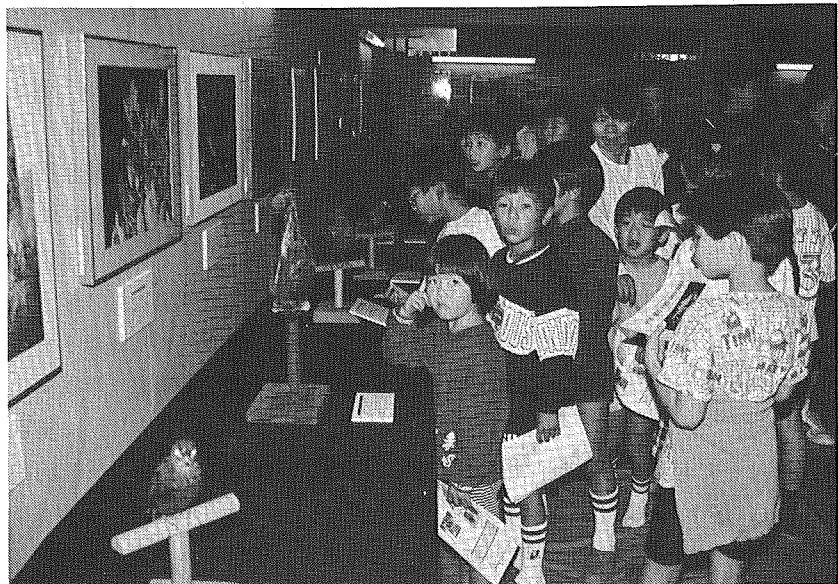
綱引き、ハーリー、盆アングマ、獅子舞、ウスデーク、沖縄角力、エイサー

芸能用具

パーランクー、ブラ、チジン（鼓）、ドラ（銅鑼）、大太鼓、小太鼓、サンバ（三板）、ツオナ（哨呐）、横笛、ショウコ（鉦鼓）、クーチョウ（胡弓）、サンシン（三線）、二胡、三弦、四つ竹、ムンジュル笠、編み笠、陣笠、花笠、アンガマ面、獅子頭



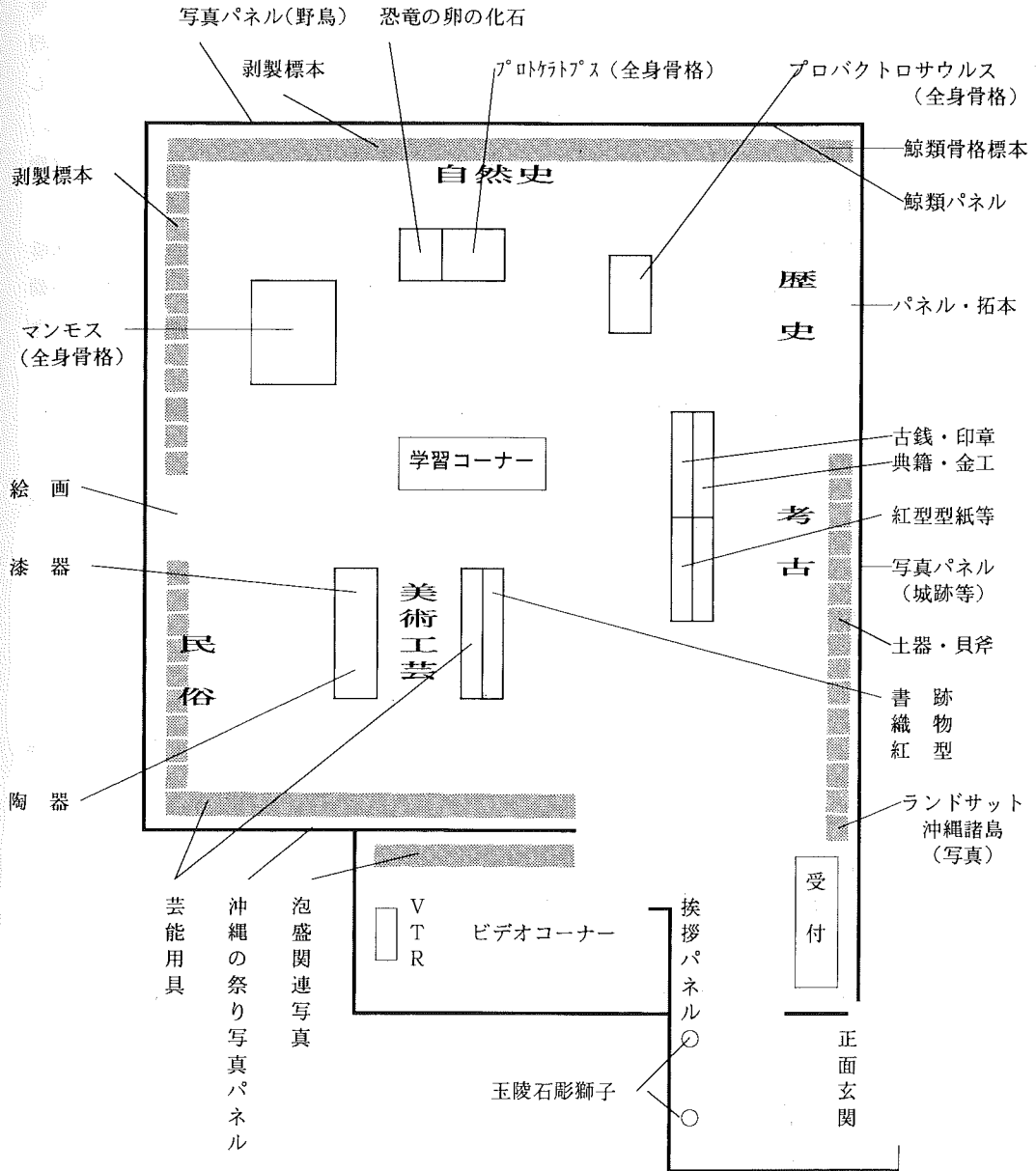
展示見学風景



展示見学風景

第18回移動博物館展示略図

〈座間味小中学校 体育館〉



V 教育普及活動

1 活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎えて博物館に対する県民の関心は日々高まってきている。博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人に見ていただくことを大きな使命とし、知的、文化的な刺激を客に与え、地域における文化の発進基地としての役割がある。とくに最近の傾向として博物館を訪れる人々のニーズも多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的をもっている。このような来館者の要求に少しでも多く応えていくため、当館では、今年度もまた多くの博物館事業を実施してきた。

教育普及活動の面では子ども体験学習教室を充実させるとともに教育ボランティアの育成に努めてきたのであるが、その他にも、講座開設以来20年の歴史をもつ博物館文化講座や移動博物館等、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施してきた。

以下、今年度を実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

- 1、博物館文化講座の開催（毎月1回の実施。第236回～247回までの12回）。
- 2、第18回移動博物館の開催（座間味村）。
- 3、夏休み「歩く・見る・作る」教室の実施。
- 4、子ども体験学習教室の実施。
- 5、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行。
- 6、ボランティア活動事業の実施。
- 7、博物館を利用する団体への研修サービス。
- 8、観覧者への展示室解説
- 9、学校による博物館学習の事前打ち合わせ。
- 10、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 11、児童生徒の夏休み宿題相談コーナーの開設
- 12、団体見学者へのビデオサービス
- 13、博物館事業のマスコミ等への広報活動。
- 14、友の会への指導や援助。

2 博物館文化講座

第236回 「沖縄の芸能」

日時・場所：4月16日（土） 当館講堂

参加者：94名

講師：宜保 榮治郎（芸能研究家）

内容：現在に継承され、祭りの中で演じられている民俗芸能について、各地の民俗芸能を紹介しながら解説がおこなわれた。

第237回 「薬草の話」（ウッチン）

日時・場所：5月21日（土） 当館講堂

参加者：140名

講 師：吉川 敏男（沖縄健康管理センター所長）

内 容：ウッチンの薬的な効果や使われ方にふれ、さらに我々の身近で接することの出来る薬用植物についての学習がおこなわれた。

第238回 「ラオスの染織」

日時・場所：6月18日（土） 当館講堂

参加者：101名

講 師：柳 悦州（沖縄県立芸術大学講師）

内 容：柳悦州先生が長年におよび調査されたラオスの染織について、スライドや実物を見ながら解説がおこなわれた。

第239回 「トンボの話」

日時・場所：7月16日（土） 当館講堂

参加者：56名

講 師：佐藤 文保（ZEROの森の友の会）

内 容：沖縄に生息するトンボ類の分布状況と保護について、スライドを見ながら解説がおこなわれた。

第240回 「子どもの世界」 特別文化講座

日時・場所：8月6日（土） 当館講堂

参加者：47名

講 師：青柳 まちこ（立教大学教授）

内 容：アジア・太平洋地域の子どもの遊びや文化について、比較文化論的にわかりやすく解説がおこなわれた。

第241回 「拓本教室」

日時・場所：9月17日（土） 当館講堂

参加者：20名（定員あり）

講 師：崎間 麗進（沖縄県文化財修理技術者協会副会長）

運天美和子（沖縄県文化財修理技術者協会会員）

屋部 邦秀（拓本研究家）

内 容：拓本のとり方について、拓本研究の専門講師が実演をしながら、実技指導がおこなわれた。

第242回 「山原の海神祭」(ウングミ)

日時・場所：10月15日（土） 当館講堂

参加者：33名

講 師：桃原 茂夫（沖縄県教育庁文化課指導主事）

内 容：旧暦7月に山原各地にて実施されている海神祭行事について、行事内容や現状の説明がおこなわれ、ビデオ映像による塩屋ウングミの紹介がおこなわれた。

第243回 「野鳥に親しむ」

日時・場所：11月19日（土） 漫湖公園（豊見城村）

参加者：30名

講 師：嵩原 健二（沖縄県立博物館指導主事）

久貝 勝盛（沖縄県立博物館指導主事）

内 容：県内最大の干潟である漫湖に渡来してくる野鳥の観察を通して、身近な自然に親しむ方法を学んだ。

第244回 「鉄器の話」

日時・場所：12月17日（土） 当館講堂

参加者：51名

講 師：大城 慧（沖縄県教育庁文化課埋蔵文化財係長）

内 容：沖縄における鉄器文化の展開について、新発見の考古資料を紹介し、鉄器についての解説がおこなわれた。

第245回 「歴史の道を歩く」

日時・場所：1月21日（土） 首里末吉

参加者：50名

講 師：萩尾 俊章（沖縄県立博物館学芸員）

内 容：首里に残る歴史の道である末吉宮参詣道を散策しながら、歴史の追体験がおこなわれた。

第246回 「東南アジアの漆文化」

日時・場所：2月18日（土） 当館講堂

参加者：40名

講 師：宮里 正子（浦添市立美術館嘱託学芸員）

内 容：東南アジアの漆器の研究をなされた宮里正子先生が、寺院法具や民具などを通して、東南アジアの人々と漆器の関わりについての説明がおこなわれた。

第247回 「塩の文化」

日時・場所：3月18日（土） 当館講堂

参加者：50名

講 師：金城 透（沖縄県教育庁文化課専門員）

内 容：生活必需品である塩の性質について述べ、古代からの塩づくり歴史や方法、沖縄の塩田技法・生産地の紹介がおこなわれた。

3 夏休み「歩く・見る・作る」教室

「スケッチをしよう」

日時・場所：8月7日（日） 龍潭周辺

参加者：31名（定員あり）

講 師：田場 健章（琉球大学付属中学校教諭）

内 容：スケッチについての学習の後、龍潭周辺に移り風景画を描きながら、実技指導がおこなわれた。

「星の観察会」

日時・場所：8月27日（土） 当館前庭

参加者：29名（定員あり）

講 師：瀬名波 任（沖縄県立博物館指導主事）

内 容：星座早見板の使い方の説明の後、前庭において天体望遠鏡を使い、惑星などの観察がおこなわれた。

「道具をつくる」(虫たちの木くだり)

日時・場所：8月28日(日) 当館講堂

参加者：30名(定員あり)

講師：外原 淳(沖縄玩具伝承友の会)

内容：遊具(虫たち)を親子で協力、製作することによって物を「つくる」楽しさと、遊び方についての実技指導がおこなわれた。

4. 子ども体験学習教室

〈事業の経過〉

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として出発した。

〈趣 旨〉

平成4年度から第2土曜日が休業日となり、それにもない子どもたちの活動の機会が増えてきたが、当館では「休業日」を利用し、子どもたちが郷土の歴史や自然、文化を自ら進んで学べるよう平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験のとぼしくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

〈実施講座〉

「昆虫標本をつくろう」

講 師：佐藤文保(ZEROの森の友の会会員)

日時・場所：5月14日(土)、5月15日(日)、6月11日(土) 当博物館講堂および末吉公園

参加者：のべ156人

内 容：昆虫標本について学んだことをもとに標本を作成し、自由研究への活用の仕方を学んだ。

「漆喰でシーサーをつくろう」

講 師：金城登(首里高校教諭)

日時・場所：7月9日(土)、8月13日(土)、8月14日(日) 当博物館講堂

参加者：のべ213人

内 容：シーサーについて学んだことをもとに、小さなシーサー、大きなシーサーをつくった。

「オリジナルの印をつくろう」

講 師：大城民子・親泊元高・比嘉康智(雲石同好会)

日時・場所：9月10日(土)、10月8日(土)、11月12日(土)

参加者：のべ111人

内 容：印の成り立ちを学んだあと、自分の名前をもとに作品をつくった。

「首里の史跡めぐり」

講 師：古塚達朗(那覇市教育委員会文化課)

日時・場所：12月10日(土)、1月14日(土)、2月12日(土)

山川、末吉、玉陵周辺コース

参加者：のべ96人

内 容：3回にわけて首里周辺の史跡をたずね、郷土の歴史や文化への理解を深めた。

5 ボランティア活動事業

〈ボランティア活動事業の経過〉

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料収集ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説、文化講座、体験学習教室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。

資料収集ボランティアは、調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を修了したものとし、登録後は解説勉強会で研修をうけながら、活動を続けてきた。

〈趣 旨〉

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

〈事業の実施〉

平成6年度も県教育庁生涯学習振興課主催の教育ボランティア養成講座の運営に参画し、その修了者の中からボランティアの登録を進めていった。

1. 教育ボランティア養成講座（受講者：61名）

「一つの道—私と空手」

講 師：佐久本嗣男（沖縄県教育庁保健体育課指導主事）

日 時：7月13日（水）

内 容：世界選手権で優勝した経験のある佐久本嗣男選手のこれまでのスポーツ人生を振り返り、生きがいを見つけ持続することの大切さを学んだ。

「沖縄の染めと織り」

講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

日 時：7月20日（水）

内 容：沖縄の染めと織りの特徴を、広くアジアや本土との比較の中で明らかにしていった。

「戦跡考古学と博物館」

講 師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

日 時：8月3日（水）

内 容：戦災にあった文化財や戦争中の兜などの様相を詳細に見ていく中で、戦争と人々の暮らしとの具体的な関わりを明らかにしていくことの大切さを説いた。

「沖縄の通事：牧志朝忠を語る」

講 師：大城将保（沖縄県立博物館学芸課長）

日 時：8月10日（水）

内 容：日本の鎖国体制が崩壊の一途をたどり、異国船が琉球や日本に足しげく出入りするようになった時代に生きてきた通事について学んだ。

「糸満のくらしと海」

講 師：金城 透（沖縄県立博物館学芸員）

日 時：8月17日（水）

内 容：糸満の人々が海で生業をたてるようになった経過や漁具の改良による漁業の発展について学んだ。

「博物館で野鳥をどう教えるか」

講 師：嵩原建二・久貝勝盛（沖縄県立博物館学芸員）

日 時：8月24日（水）

内 容：博物館自然史展示室で野鳥を学習させるには、どのような視点から見ていったらよいか、天然記念物を中心にすえて話をした。

2. ボランティアの登録

教育ボランティア養成講座の受講者の中から24名（教育ボランティア18名、資料収集ボランティア6名）が、ボランティアとしての登録を行った。

3. ボランティア専門講座

「先島の歴史をどう教えるか」

講 師：新城俊昭（大平高等学校教諭）

日 時：10月12日（水）

「東南アジアの漆芸」

講 師：宮里正子（浦添市立美術館学芸員）

日 時：10月26日（水）

「わら算の歴史」

講 師：外原淳（沖縄玩具伝承友の会）

日 時：11月9日（水）

「わら算の製作」

講 師：外原 淳（沖縄玩具伝承友の会）

日 時：12月7日（水）

「沖縄の植物について」

講 師：島袋守成（仲泊小中学校教頭）

日 時：12月21日（水）

「昆虫から見た沖縄の自然環境」

講 師：佐藤文保（ZEROの森の友の会会員）

6 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

郷土の自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした、映像および世界の芸術文化をあつかった、映像等の映写会と音楽家による生演奏を内容とし、原則として毎月1回日曜日の午後2時より博物館講堂において実施している。

シリーズ「映像で見る沖縄」

第1回 映 画「老人と海」

期 日：4月24日（日）

入場者：150名

内 容：与那国島を舞台にした、老漁師と巨大カジキとの格闘の記録。1990年制作、
ニューイングランド映画祭グランプリを受賞した作品。

第2回 映 画「①紅型／②宮古上布／③壺屋の陶器」

期 日：5月24日（日）

入場者：86名

内 容：紅型、宮古上布、陶器の各分野における名匠（城間栄喜、砂川玄恒、金城次郎）の製作過程を通じて、沖縄が世界に誇る伝統工芸の技法を忠実克明に記録した映像記録を紹介した。

第3回 映 画「黒島民俗誌①島譜の中の神々／②牛と海の賦」

映画解説「映画製作にあたって」

期 日：6月5日（日）

講 師：篠原徹（国立歴史民俗博物館助教授）

入場者：148名

内 容：国立歴史民俗博物館助教授の、篠原徹氏によって製作された、八重山黒島の民俗学的記録フィルムの上映と、黒島での撮影にまつわる話を中心に、製作者の篠原徹氏が解説した。シリーズ「夏休み親子シアター」

第4回 映 画「ニルスの不思議な旅」

期 日：7月31日（日）

入場者：298名

内 容：幼稚園生や小学生を対象に、道徳教育のため製作された文部省選定アニメ作品の上映を行った。

第5回 映 画「にんぎょひめ」

期 日：8月7日（日）

入場者：230名

内 容：アンデルセン童話「にんぎょひめ」を人形アニメーションで映画化された作品の上映を行った。

シリーズ「名画劇場」

第6回 講 演「映画を楽しむ」

講 師：山里将人氏（医学博士）

映 画「大いなる幻影」

期 日：9月4日（日）

入場者：45名

内 容：映画研究者として知られる、山里将人氏による名作の紹介と、映画にまつわるエピソードなどの講演を行った後、第一次大戦を描いたフランスの作品で敵味方を越える、大きなヒューマニズムの精神を描いた作品「大いなる幻影」を上映した。

第7回 映 画「オーケストラの少女」

期 日：10月2日（日）

入場者：50名

内 容：アメリカのヘンリー・コスター監督の作品で、アカデミー劇映画音楽賞を受

賞した作品の上映を行った。

第8回 映画「舞踏会の手帖」

期 日：11月3日（日）

入場者：53名

内 容：フランスのジュリアン・デュヴィヴィエ監督の作品で、女性ロマンティズムの世界を描いた作品を上映した。

シリーズ〔ミュージアムコンサート〕

第9回 演奏「音のアトリエ」

期 日：12月4日（日）

入場者：103名

講 師：山田一 佐渡山真理 竹内元子 大城真紀

内 容：県立芸術大学非常勤講師の佐渡山真理（ビオラ）、山田一（フルート）、竹内元子（バイオリン）、大城真紀（チェロ）、四氏の四重奏によるコンサートを行った。

シリーズ〔チャップリンの世界〕

第10回 映画「アートオブコメディ」

期 日：1月8日（日）

入場者：21名

内 容：役者、拳斗、寄席見物、改悟の短編映画から構成された作品を上映した。

第12回 映画「キッド」

期 日：2月5日（日）

入場者：96名

内 容：悲劇を、喜劇のなかに初めてとり入れた名作で、チャップリンが32歳の時の作品を上映した。

第13回 映画「黄金狂時代」

期 日：3月5日（日）

入場者：73名

内 容：チャップリンの代表作で、70分の本格的長編を上映した。



7 博物館を利用した研修

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然について多くのことを学びたいとの要望が高まってきています。これらの要望は、従来学校などの団体が多数をしめてきたが、近年企業などからもその要望が高まってきている。

平成6年度は、企業などが自ら主催し且つ博物館での展示見学を計画している研修に対して、博物館での講演というかたちで側面的な支援を行ったり、博物館資料を活用した大学の授業を博物館で共同で企画するなどの取組を行ってきた。

〈琉球銀行新入行員研修〉

○「沖縄の歴史と文化」

日時・場所：1994年4月27日（水）当館講堂

講師：萩尾俊章（沖縄県立博物館学芸員）

〈国頭教育事務所初任者研修会〉

○「沖縄の歴史と文化」

日時・場所：1994年8月17日（水）

講師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

〈琉球大学教育学部「社会科地理歴史科調査Ⅱ」「社会科公民科調査Ⅰ」〉

○「首里那覇港図屏風を読む」

日時・場所：1994年10月19日（水）・博物館講堂

講師：田港朝昭（琉球大学教育学部教授）、里井洋一（琉球大学教育学部助教授）
前田真之（沖縄県立博物館学芸員）

○「秤に挑む」

日時・場所：1994年12月2日（水）・博物館講堂

講師：田港朝昭（琉球大学教授）、里井洋一（琉球大学教育学部助教授）
前田真之（沖縄県立博物館学芸員）

○「鉄かぶとから学ぶ一戦跡考古学」

日時・場所：1995年11月16日（水）・博物館講堂

講師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

○「拓本をとる」

日時・場所：1995年1月11日（水）・博物館講堂

講師：田港朝昭（琉球大学教育学部教授）・里井洋一（琉球大学教育学部助教授）
當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

〈生涯学習振興課主催教育ボランティア養成講座〉

○「一つの道—私と空手」

講師：佐久本嗣男（県教育庁保健体育課指導主事）

日時・場所：1994年7月13日（水）

○「沖縄の染めと織り」

講師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

日時・場所：1993年7月20日（水）

○「戦跡考古学と博物館」

講師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

日時・場所：1994年8月3日（水）

○「沖縄の通事：牧志朝忠を語る」

講師：大城将保（沖縄県立博物館学芸課長）

日時・場所：1994年8月10日（水）

○「糸満のくらしと海」

講師：金城透（沖縄県立博物館学芸員）

日時・場所：1994年8月17日（水）

○「博物館で野鳥をどう教えるか」

講師：嵩原建二・久貝勝盛（沖縄県立博物館学芸員）

日時・場所：1994年8月24日（水）

○「地域と博物館」

講師：大城和喜（南風原文化センター館長）

日時・場所：1993年9月7日（水）

VI 収蔵資料

1 収蔵資料現在高

平成7年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	600	25,425	6	2	26,033	46,593
	動物	1,064	18,146	472	13	19,695	
	植物	15	850	0	0	865	
美術 工芸	絵画	73	517	5	0	595	9,766
	書跡	505	856	48	3	1,412	
	彫刻	5	113	132	0	250	
	陶磁器	442	3,163	249	492	4,346	
	漆器	239	200	162	0	601	
	染織	1,076	1,476	10	0	2,562	
歴史資料		2,086	4,951	334	74	7,445	7,445
考古資料		8	3,572	975	15	4,570	4,570
民俗資料		2,370	846	580	78	3,874	3,874
総計		8,483	60,115	2,973	677	72,249	72,249

2 平成6年度(1994)新収蔵資料高

平成6年4月1日～平成7年3月31日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		25,000			25,000	25,018
	動物		16	2		18	
	植物						
美術 工芸	絵画	3				3	10
	書跡	1				1	
	彫刻						
	陶磁器		1			1	
	漆器						
	染織		5			5	
歴史資料		1,582	210			1,792	1,792
考古資料			2,000			2,000	2,000
民俗資料			69			69	69
総計		1,586	27,301	2	0	28,889	28,889

3 平成6年度(1994)新収蔵資料目録

寄贈の部

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史	地質 谷川善和コレクション(化石)	25,000	長谷川 善和	神奈川県
	動物 コハクチョウ	1	こどもの国	沖縄市
	” フルマカモメ	1	”	”
	” セグロカモメ	1	”	”
	” ハヤブサ	1	”	”
	” リュウキュウツバメ	1	”	”
	” カイツブリ	1	”	”
	” ハシボソミズナギドリ	1	”	”
	” オオミズナギドリ	1	”	”
	” シラオネツタイチョウ	1	”	”
	” ムクドリ	1	桑原 和之	千葉県
	” ヒヨドリ	1	”	”
	” カワウ	2	”	”
	” トラツグミ	1	”	”
” キジバト	2	”	”	
美術工	陶磁器 水甕	1	照喜納 敏子	沖縄市
	染織 絹深浅地総緋上衣他	5	照喜納 敏子	沖縄市
歴史資料	衣料切符	2	山田 親春	那覇市
	” 名古屋新聞	1	翁 長良明	那覇市
	” 琉球鳩目銭他	136	石澤 司	那覇市
	” パッチン・メンコ	1	上江洲 均	東京都
	” 正書出師表	1	平 良和子	那覇市
	” 老後家中記(原本)	1	川 平朝伸	那覇市
	” B円・10銭他	13	小橋川 共正	那覇市
	” 琉球文化史年表他	6	石 山玄一	北海道
	” ファミコン一式	13	池宮城 啓子	南風原町
	” 海洋博覧会の旗(大)他	5	安里 嗣淳	沖縄市
	” OKINAWA-Isle of Smiles他	4	ジュン 新川	米国・ハワイ
	” 終戦直後の沖縄絵葉書他	15	ベティ イワタ	米国・ロス
	” 高等学校囲碁講義録他	11	ジョージ 宮城	米国・ロス
	” 手榴弾	1	比 嘉春子	那覇市

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
考古資料	土器片等の置物	2,000	三島格	熊本県
民俗資料	弁当箱他	6	平良和子	那覇市
"	重箱	1	大城守成	那覇市
"	手マリ他	2	宜保喜久子	那覇市
"	算盤	2	金城琉風	那覇市
"	イタチ取り箱	1	石嶺傳正	那覇市
"	秤他	6	福地健	那覇市
"	釵	2	徳村政和	那覇市
"	ホットサンド用フライパン	33	幸地順進	那覇市
"	ハガマ他	10	井口幸子	那覇市
"	コップ	1	翁長良明	那覇市
"	芭蕉経緯上衣	4	島袋直江	那覇市
"	木綿紺地緋文様上衣(敷瓦文様)	1	金城ツル	那覇市

購入の部

分類	品名	数量	備考
美術 工書	奉使琉球図(部分/レプリカ)	3	委託料で作製
	古硯	1	
歴史資料	琉球人行列附他	1,577	委託料で作製
"	久米島金券 一円	1	
"	久米島金券 10銭	1	
"	久米島切手	1	
"	八重山金券	1	
"	朝鮮鐘(レプリカ)	1	

収集の部

	品名	数量	備考
自然動物	ハマシギ	2	学芸員による収集

発掘出土品の部

	品名	数量	備考
考古資料	旧中城御殿第3次発掘調査出土品(一括)	4,797	

譲渡願が受理された段階で平成7年度に登録する

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	} 3口	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）				
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）				

県指定文化財（有形文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1 軀1枚	昭33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵画	絹本著色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本著色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本著色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃	〃
工芸	三線江戸与那	1挺	昭33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3. 14	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1台	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	色嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天尊御鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧一品種権現鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘	1挺附胴	平6. 3. 15	〃	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	県立博物館	沖縄県
〃	扁額「徳高」鄭元偉書	1架	平元. 9. 29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」林麟焜書	1架	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49. 11. 11	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
歴史資料	安国山樹花木之記碑	1基	平元. 9. 20	県立博物館	沖縄県

VIII 刊 行 物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁)	内 容
年間行事案内	定 期	10,000	A 4 三折り	当年度の行事案内
年間ポスター	定 期	1,000	B 2	当年度の行事案内
日本文リーフレット	定 期	10,000	A 4 三折り	当館の展示内容を紹介
英文リーフレット	定 期	10,000	A 4 三折り	当館の展示内容を紹介
韓国語リーフレット	定 期	10,000	A 4 三折り	当館の展示内容を紹介
平成5年度 新収蔵品展図録	定 期	1,000	B 5 (16)	1993年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された新収蔵品を紹介する企画展の図録
平成5年度沖縄県立博物館 年報	定 期	800	B 5 (84)	前年度の当館の活動状況や概要
特別展「子どもの世界」 図録	不定期	1,000	A 4 (137)	沖縄の子どもにまつわる資料について、歴史・考古・民俗・美術工芸等の各分野から紹介した特別展図録
移動博物館リーフレット	不定期	1,000	B 5 (4)	座間味村で開催された移動博で展示する展示物を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	不定期	2,000	B 5 (1)	座間味村で開催された移動博の案内チラシ
沖縄県博物館紀要 第21号	定 期	1,000	B 5 (241)	学芸員の調査研究報告書
『旧中城御殿』 旧中城御殿石垣工事にかかる 第三次発掘調査	不定期	500	B 5 (70)	当館敷地の石垣工事にとともなう第三次発掘調査報告書
教育普及書 「南西諸島の動物」 境界線上のいきものたち	不定期	1,000	A 4 (88)	南西諸島の動物分布について、図版やイラストを使って解説した教育普及書
久米島総合調査報告書	不定期	1,000	B 5 (350)	久米島における考古、歴史、民俗、美術工芸、自然の総合的調査の報告
平成6年度子ども体験教室	不定期	1,000	B 5 (115)	平成6年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習のまとめ
沖縄県立博物館だより, NO 6	定 期	1,000	B 5 (4)	当館の行事等を紹介する広報誌
「ボランティア」 皆できずくボランティアのあゆみ	不定期	500	B 5 (41)	ボランティアのこれまでの活動を紹介
平成7年度 特別展「甦る沖縄」ポスター	不定期	2,000	B 2	特別展の案内ポスター
平成7年度 特別展「甦る沖縄」チラシ	不定期	20,000	A 4	特別展の広報チラシ

VIII その他の活動

1 資料貸出

- ①展示会名：日本文化のあけぼの
主 催：国立歴史民俗資料館
開催場所：国立歴史民俗資料館
貸出期間：平成6年4月1日～3月31日
貸出資料：歴史資料／看板他18点 写真パネル47点
- ②展示会名：「A サインからポーク缶まで」～アメリカターの正と負の遺産～
主 催：南風原町立南風原文化センター
開催場所：南風原町立南風原文化センター
貸出期間：平成6年4月26日～5月20日
貸出資料：歴史資料／看板他18点 写真パネル47点
- ③展示会名：琉球切手原画展「琉球切手に見る沖縄の自然」
主 催：沖縄郵政管理事務所
開催場所：OKICOMM (沖縄通信資料センター)
貸出期間：平成6年5月10日～6月3日
貸出資料：美術工芸／琉球切手原画37点
- ④展示会名：琉球切手原画展
主 催：沖縄郵政管理事務所
開催場所：OKICOMM (沖縄通信資料センター)
貸出期間：平成6年6月13日～7月5日
貸出資料：美術工芸／琉球切手原画23点
- ⑤展示会名：紅型—琉球衣装の美—
主 催：北海道立近代美術館・北海道立帯広美術館・札幌テレビ放送
開催場所：北海道立近代美術館・北海道立帯広美術館
貸出期間：平成6年6月28日～9月30日
貸出資料：美術工芸／紅型資料30点
- ⑥展示会名：「きらめく紅絹の交響楽展」
主 催：キッチンハウス株式会社沖縄店
開催場所：キッチンハウス株式会社沖縄店
貸出期間：平成6年7月14日～7月30日
貸出資料：民俗資料／フクター1点
- ⑦展示会名：「まつりの造形」
主 催：三重県立美術館
開催場所：三重県立美術館
貸出期間：平成7年9月5日～11月30日
貸出資料：美術工芸／民俗資料／紅型幕他
- ⑧展示会名：平成6年秋季特別展「サンゴ礁をわたる碧の風—南西諸島の中の弥生文化—」
主 催：大阪府立弥生文化博物館

開催場所：大阪府立弥生文化博物館

貸出期間：平成6年9月19日～平成6年12月12日

貸出資料：考古・自然史・民俗／荻堂式深鉢他25点

展示会名：「琉球切手原画」

主 催：沖縄郵趣連盟

開催場所：東町郵便局

貸出期間：平成6年11月22日～11月28日

貸出資料：美術工芸／琉球切手原画8点

⑩展示会名：特別展「鹿児島・竹の世界－環シナ海文化の視座から－」

主 催：鹿児島県歴史資料センター黎明館

開催場所：鹿児島県歴史資料センター黎明館

貸出期間：平成7年2月1日～3月18日

貸出資料：民俗資料／カマンタ他5点

⑪展示会名：至聖廟（孔子廟）後興20周年記念 書画展

主 催：社団法人 久米崇聖会

開催場所：那覇市民ギャラリー

貸出期間：平成7年2月13日(月)～2月20日(月)

貸出資料：美術工芸／北京駐在琉球都通事鄭和橋肖像画

⑫展示会名：「あわもりの歴史と文化」

主 催：石川市立歴史民俗資料館

開催場所：石川市立歴史民俗資料館

貸出期間：平成7年2月13日(月)～3月24日(金)

貸出資料：歴史・美術工芸・民俗／酒造の図他15点 写真パネル73点

2 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財およびこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財や資料が約4万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内のくん蒸による害虫駆除を行なっている。

平成6年度は7月4日から7月8日までの期間をあてて実施した。地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、徳高篇額、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。

3. 旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査

今年度は、平成5年度の第2次調査に引き続いて第3次発掘調査を実施した。発掘調査地区は旧中城御殿、現在の沖縄県立博物館敷地内北側部分の東西35メートル、南北2メートルで、発掘面積75平方メートルの範囲である。

平成6年5月、文化財保護法第98条の2第1項の規定によって、埋蔵文化財発掘調査の通知を文化庁長官へ提出し、7月19日発掘を開始。同年8月20日に発掘を終了した。発掘終了後は出土遺物の整理および研究を行い『旧中城御殿－旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査』報告書を3月に刊行した。

4. 施設整備事業

- (1) 高齢者や車椅子等で来館される方のために1階に身障者用トイレを設置した。
- (2) 博物館の収蔵品管理をコンピューター管理にするために2階にコンピューター室を設けた。
- (3) その他施設の改修等を実施した。

5. 沖縄県博物館協議会

第1回

日時 平成6年10月14日(金) 11:00~13:00

場所 メルパルク郵便貯金会館

1. 会議事項
県立博物館50周年記念事業について
2. 報告事項
平成6年度県立博物館事業について
3. その他

第2回

日時 平成7年 3月17日(金) 11:00~13:00

場所 メルパルク郵便貯金会館

1. 会議事項
平成7年度県立博物館予算案及び新規・主要事業概要について
2. その他

沖縄県立博物館協議会委員名簿

(平成6年6月1日~平成8年5月31日)

	氏名	所属	職名
学 識 経 験 者	翁 長 自 修	琉球大学教育学部(美術工芸)	教 授
	新 城 和 治	琉球大学教育学部(自然史)	教 授
	金 城 正 篤	琉球大学法文学部(歴史)	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会(考古)	会 長
学 校 教 育 関 係 者	前 山 田 任	城西小学校	校 長
	運 天 富 三	今帰仁中学校	校 長
	安 室 肇	南部工業高等学校	校 長
社 会 教 育 関 係 者	山 内 晴 子	沖縄県婦人連合会	理 事
	島 袋 光 尋	沖縄県PTA連合会	会 長
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員の会議	議 長

6 沖縄県博物館協会

平成6年度の総会及び研修会は、5月20日（金）に読谷村総合福祉センターを主会場として開催された。北は奄美博物館から南は小浜民俗資料館まで広範囲から50名余の参加があり、会終了後の現地研修の準備等で当該館に残った人も含めると70名以上の人がかかわった。宮城篤正（浦添市美術館館長）副会長の開会宣言、宮良良秀読谷村教育委員会委員長長の歓迎の挨拶、知念勇県文化課課長補佐の来賓挨拶の後、定年退職で公職を退かれた、宜保榮治郎（元県立博物館館長）元会長と、神元一司（元名護博物館館長）元理事に対し、感謝状と記念品が贈呈された。議事として平成5年度の会務報告・決算報告・博物館実習生受け入れ状況報告・平成6年度事業計画・予算案・規約の一部改正・新規加入館の承認等が全会一致で承認された。

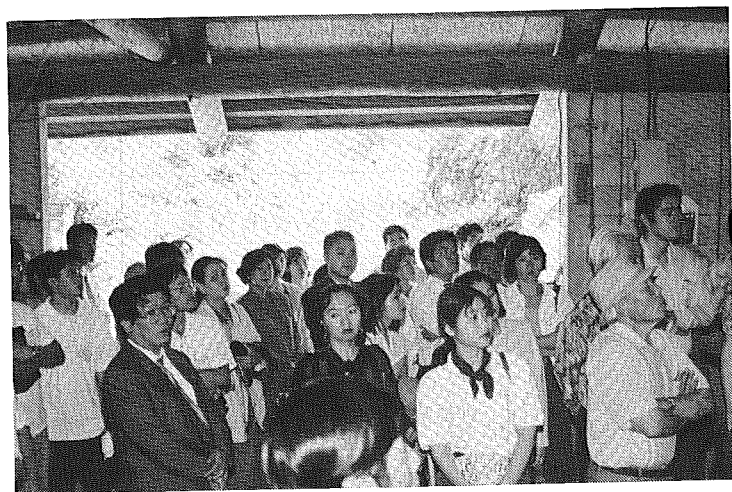
総会終了後、琉球村・石川市歴史民俗資料館・読谷村歴史民俗資料館・スタジオパーク南海大国琉球の風の沖博協加盟館及び、やちむんの里・読谷山花織の波平工房を見学した。さらに午後5時30分からはマンタハウスにおいて懇親会があり、バーベキューをほおぼりながら各館の学芸員紹介や各館の情報交換が行われた。

秋の研修会は11月10日（木）～11日（金）の日程でオリオンビール研修ホールを会場として行われた。その前に北部一円の博物館が何度か集まり、名護博物館を中心に計画を練って当日を迎えた。11月10日は受付後、琉大法文学部の池田栄史助教授から来年度の博物館実習についてのお願いがあった。

講演は、最初に海洋博記念公園水族館の内田詮三氏による「沖縄の鯨類」で、スライドをふんだんに使った分かりやすく興味深い内容であった。次の講演は、いしなく授産所の比嘉太英氏による「社会教育小話」で、長年の教育経験の中で蓄積されたウィットに富んだ内容で聴衆を引きつけていた。

懇親会もオリオンビールゲストホールで行われ、司会をつとめた宮里至名護博物館館長は、専用の紺の上着に着替え大張り切りで、地元のビールもふんだんにあり余興もあって楽しい懇親会であった。

翌日の11日は、名護博物館学芸員と安座間安史北山高校教諭の案内で、アヲ種苗所・大林道・喜如嘉・慶佐次・沖縄貝類標本館・オープンしたての宜野座村立博物館等を見学した。



7 博物館実習

学芸員課程の履修科目として博物館実習があるが、本館では従来本土大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度より県内の沖縄国際大学に博物館学芸員課程が設置されたので、本年度より同大学の実習生13名を受け入れて、学芸員が総当たりで実技指導をおこなった。

1. 実習生

阿部巧（沖国大）、石澤司（同）、喜久川智子（同）、百瀬隆文（同）、與那嶺綾子（同）、島袋綾野（同）、儀間淳一（同）、田中ゆきの（同）、宮平真由美（同）、屋嘉部純治（同）、与儀真由美（同）、上原久（同）、国吉由美子（同大聴講生）

2. 期間

平成6年8月29日（月）～9月9日（金）〔10日間〕

3. 実習科目と担当者

- (1) 博物館活動の概要（大城）
- (2) 歴史資料取扱実習（萩尾）
- (3) 考古資料取扱実習（當眞）
- (4) 自然史資料取扱実習（嵩原・久貝・瀬名波）
- (5) 美術工芸資料取扱実習（瑞慶山）
- (6) 民俗資料取扱実習（金城）
- (7) 教育普及活動実習（前田）
- (8) 資料受入・分類・登録・原簿記載実習（與那嶺）
- (9) 保存科学実習（岸本）
- (10) 常設展解説実習（大城・上原）
- (11) 展示作業実習（学芸員全員）

8 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから15年目をむかえた。その間会員も増加し年々充実した活動を行ってきている。1994年度決算報告書による実績は8,994,471円であった。また、会員は655名、賛助会員10名、準会員が18名（『博友』第9号による）となっている。

1994年5月22日（月）には1995年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動が開始した。

1994年度に実施した活動の概要と事業内容は次のとおりである。

1. 事業

- (1) 海外研修旅行（5月29日～6月3日）

韓国・済州島の研修旅行を実施した。

参加者：37人

- (2) 講演会（6月11日）

西村貞雄琉球大学教授による「首里城正殿の彫刻史的変遷」についての講演会を実施した。

参加者：49人

- (3) 宜野座村立博物館見学（6月25日）

玉代勢幸一氏の解説により博物館見学、その後阿波根直孝氏の案内で宜野座村内の史跡を見学した。参加者：39人

(4) 離島めぐり（7月9日～10日）

西銘民雄・嘉納定夫両氏の説明により、伊平屋島の研修旅行を実施した。

参加者：35人

(5) 展示室解説会（10月1日）

金城透氏の解説で第4室（民俗室）の解説会を実施した。

参加者：8人

(6) 県外研修旅行（10月7日～10日）

熊本県の研修旅行を実施した。

参加者：9人

(7) 首里城周辺めぐり（11月5日）

宮里朝光氏の説明で「汀良町」の史跡の見学を実施した。

参加者：34人

(8) 拓本教室（11月13日）

阿波根直孝・屋部邦秀両氏の指導で拓本の採り方等について学んだ。

参加者：10人

(9) 文化キャラバン隊（12月3日～4日）

沖縄県立博物館が座間味島で実施した移動博の手伝いを行った。

参加者：7人

(10) グスクめぐり（12月16日）

当真嗣一氏の説明で恩納グスク・名護グスク・今帰仁グスクの見学を実施した。

参加者：59人

(11) 首里城見学会（3月4日）

真栄平房敬氏の説明で首里城の見学会を実施した。

参加者：37人

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 博物館への援助活動

コンピューター用プリンター（20万円相当を寄贈）

4. 会誌（博友）・会報（赤い瓦）の発行

5. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

6. その他

- サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、自然サークル、拓本サークル、民俗サークル
- 他府県友の会との交流：12月21日（水）香川県文化会館友の会メンバー45人と講堂にて交流会を行った。
- 総会及び懇親会（1994年5月16日）参加者：80人
- 新年会（1995年1月23日）参加者：94人

Ⅸ 日誌抄

(平成6年4月～平成7年3月)

平成6年

- 4月5日 宇宙科学研究所 上杉邦憲教授他2名来館
上杉家管理事務所 上杉虎雄氏来館
- 4月27日 平成5年度定期会計監査 ～28日
- 5月10日 企画展「新収藏品展」展オープン ～5月29日
資料寄贈者 仲井間宏氏来館
- 5月11日 多良間村教育委員会 渡久山春好教育長他3名来館
- 5月19日 沖縄県博物館協会理事会
- 5月20日 沖縄県博物館協会定期総会 (於読谷村)
- 5月24日 会計監査委員監査
- 6月3日 九州地区図書館長一行来館
- 6月4日 国立歴史民俗博物館 篠原徹教授来館
- 6月7日 九州地区知事会主管課長一行来館
- 6月8日 全国知事会調査第二部 浦山紘一郎部長他1名来館
- 6月11日 博物館友の会講演 西村貞夫「首里城正の龍柱と龍脈について」
- 6月16日 文化庁及び国文化財保護審議委員一行来館
- 7月13日 (財)日本生命財団 五道闊専務理事待遇来館
- 7月19日 特別展「子どもの世界」展オープン ～8月31日
- 8月10日 横浜国立大学 長谷川善和教授来館
- 8月19日 特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」展示委員会
- 8月25日 名護博物館職員及び博物館実習生一行来館
- 9月10日 九州博物館協議会・第24回学芸員事務職員研修会 (宮崎県)
- 9月24日 沖縄考古学会創立25周年記念 (於講堂)
- 10月7日 全国都道府県在京文教担当連絡協会 佐藤武会長一行来館
- 10月11日 中国国家図書館 任継愈館長一行来館
- 10月14日 沖縄県博物館協議会委嘱状交付及び第1回会議 (於メルパルク)
- 10月20日 兵庫県議会警察常任委員会 高畑正三委員長他9名来館
- 10月27日 福建省博物館考古部 栗建安副主任他1名来館
- 11月10日 沖縄県博物館協会秋季研修会 (於名護市)
- 11月14日 消防点検
- 11月17日 信濃美術館 前川公秀学芸課長他1名来館
千葉県立美術館 下平正樹学芸課長来館
- 11月22日 プエルトリコ政府経済開発・商業庁世界市場開発担当
クリフォードE. マイヤット長官他1名来館
- 11月29日 九州管区警察局 国枝英郎局長他1名来館
- 12月2日 第18回移動博物館 (座間味村) オープン ～3日
- 12月6日 出光興産 出光昭介会長来館

- 12月13日 宇検村教育委員会一行来館
- 12月20日 (社)北海道開拓記念館・開拓の村文化振興会
佐土根脩専務理事一行来館
- 12月21日 香川県文化会館友の会一行来館
- 平成7年
- 1月10日 沖縄県北海道事務所 池原繁秀所長来館
文化庁 星野紘主任文化財調査官他1名来館
- 1月11日 埼玉県 久保木宏太郎出納長他2名来館
- 1月18日 横浜税関 北村歳治税関長他2名来館
- 1月19日 中国第一歴史档案館 泰國經副館長他6名来館
- 1月20日 国立西洋美術館 藤田不二男次長来館
- 1月25日 沖縄県警察本部 吉川幸夫本部長他1名来館
- 1月26日 消防訓練
- 2月14日 元沖縄開発庁 五十嵐剛専門官他1名来館
- 2月22日 文部省社会教育課 渡部徹振興係長他1名来館
- 2月24日 文部省社会教育課 米澤宏専門職員他1名来館
(財)地域活性センター 室井澄生編集顧問他2名来館
- 3月1日 九州大学 服部英雄助教授来館
- 3月13日 沖縄県立芸術大学学長・信濃美術館 山本正男館長
信濃美術館 原牧夫副館長他1名来館
- 3月14日 国立科学博物館 五十嵐哲夫施設係長来館
- 3月17日 沖縄県立博物館協議会 (於メルパルク)
- 3月25日 韓国 KBS テレビ取材

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 _____ 印

電 話 _____

下記により貴館施設を使用したいので許可して下さるようお願いいたします。

記

1 使用者

団 体 名 _____ 及び
代表者名 _____ ① 職業 (_____)
住 所 _____ 電話 _____

2 使用目的

3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分 ()
至：平成 年 月 日 午 時 分 日間

5 予定参加人員 _____ 人

6 その他必要な資料 (プログラム等)

許 可 書

月 日付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。
平成 年 月 日

沖縄県立博物館長



X 関係法規抄録

○博物館法 (昭和26・12・1) 法律第285号)

〔最近改正〕 平成3・4・2法律第25号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法(昭和24年法律第207号)の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関(社会教育法による公民館及び図書館法(昭和25年法律第118号)による図書館を除く。)のうち、地方公共団体、民法(明治29年法律第89号)第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
 - 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法(昭和25年法律第214号)の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する第一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9 他の博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学校又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
- 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
- 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
- 2 名称
- 3 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しな

なければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めるとき、又は虚偽の申請に基づいて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当たっては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えなければならない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消さなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の業務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

- 2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物

館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基づいて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- 1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。
- 2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- 3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- 4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣が、その他の施設にあたっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)、旧高等学校令又は旧青年学校令(昭和14年勅令第254号)の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 (昭和27年3月20日)
政令第47号

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例 (昭和47年5月15日) (抄)
条例第24号

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣 旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

氏 名	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則 (昭和47年5月15日) (抄)
教育委員会規則第2号

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年5月15日)
教育委員会規則第13号

最終改正 平成7年5月2日教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下同じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

（当直）

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

（職員の服務等）

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

（文書）

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

（開館時間）

第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

（休館日）

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。

（寄贈及び寄託）

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

（寄託資料の保管）

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

（寄託資料の返付）

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

（経費の負担）

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

（入館券の交付）

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

（入館料の免除）

第16条の2 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規程により入館料を

免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
 - (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
 - (3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合
- 2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書(第4号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。
- (入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁止、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者
 - (2) めいてい、疾病等により他人に迷惑をかけるおそれがある者
 - (3) その他館長が適当でないと認める者
- (施設使用の許可等)

第18条 博物館施設(講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。)を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書(第5号様式)を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成元年3月31日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則(平成4年8月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則(平成5年2月16日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

附則(平成7年5月2日教育委員会規則9号)

この規則は、平成7年5月2日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者
住 所
氏 名

印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

- 1 種 別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 時価見積額
- 8 寄贈の理由

受 諾 書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 印

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者
住 所
氏 名

印

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

記

- 1 種 別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 寄託期間

平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託承認書

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

㊟

平成 年 月 日付け申請のあった博物館の寄託については、下記により受託します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間
平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで
- 7 備考

第4号様式 (第16条の2関係)

入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所

氏名 _____ ㊟

電話 _____

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号) 第16条の2第2項に基づき申請します。

記

- 1 入館者 団体名 _____
引率者名 _____
- 2 入館者数 _____ 人
- 3 入館日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____ 曜日) _____ 時 ~ _____ 時
- 4 申請理由 _____

承認証
殿

年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。

年 月 日 沖縄県立博物館長 ㊟

○沖縄県立博物館協議会規則 (昭和47年10月2日)
教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例 (昭和47年5月15日)
条例第37号

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規程に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料)

(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体 (20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

別表第2 (体育施設の使用料) (第2条関係) - 省略

沖繩県立博物館年報 No.28

1995年7月20日 発行

編集・発行 沖 繩 県 立 博 物 館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL : 098-884-2243

FAX : 098-886-4353

印 刷 (株)南 西 印 刷

住 所 〒903 那覇市首里石嶺町1-127

TEL : 098-884-4321

FAX : 098-884-4389

沖縄県立博物館行事案内・平成7年度

◆特別展

甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展・・・・・・・・・・6月20日(火)～7月30日(日)

◆企画展

新収藏品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8月15日(火)～9月3日(日)

◆移動博

第19回移動博物館～渡嘉敷村～・・・・・・・・・・11月18日(土)～11月19日(日)

第20回移動博物館～国頭村～・・・・・・・・・・11月25日(土)～11月26日(日)

◆博物館文化講座

在米国沖縄関連文化財について・・・・・・・・・・4月15日(土)

韓国の綱引き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月20日(土)

米軍統治下の言論統制・・・・・・・・・・・・・・・・・・6月24日(土)

親子戦跡めぐり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7月2日(日)

沖縄戦から50年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7月15日(土)

戦跡考古学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8月19日(土)

アメリカの美術館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9月16日(土)

歴史の道を歩く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10月21日(土)

野鳥に親しむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11月11日(土)

中国からきた風水思想・・・・・・・・・・・・・・・・・・12月16日(土)

遺跡めぐり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1月20日(土)

イリオモテヤマネコの生態・・・・・・・・・・・・・・・・・・2月17日(土)

中琉歴史関係について・・・・・・・・・・・・・・・・・・3月16日(土)

◆夏休み歩く見る作る教室(定員あり)

サンゴ礁の生きものたち・・・・・・・・・・・・・・・・・・7月22日(土)

親子スケッチ会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7月23日(日)

豆腐作り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8月26日(土)

◆子ども体験学習教室(定員あり)

植物標本をつくろう・・・・・・・・・・5月13日(土)／6月24日(土)／6月25日(日)

漆喰でシーサーをつくろう・・・・・・・・7月8日(土)／8月12日(土)／8月14日(月)

土器をつくろう・・・・・・・・・・9月9日(土)／10月14日(土)／11月11日(土)

祭りの仮面をつくろう・・・・・・・・・・12月9日(土)／1月13日(土)／2月10日(土)

◆博物館シアター

映画：はだしのゲン・・・・・・・・・・・・・・・・・・4月23日(日)

映画：アンネの日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月21日(日)

映画：沖縄戦・未来への証言・・・・・・・・・・6月25日(日)

映画：野生のエルザ・・・・・・・・・・・・・・・・・・7月30日(日)

映画：ペリカンと少年・・・・・・・・・・・・・・・・・・8月20日(日)

映画：鉄道員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9月3日(日)

映画：禁じられた遊び・・・・・・・・・・・・・・・・・・10月1日(日)

映画：自転車泥棒・・・・・・・・・・・・・・・・・・11月5日(日)

コンサート：歌とギターで誘うわらべ歌の世界へ・・・・・・・・12月3日(日)

映画：天国と地獄・・・・・・・・・・・・・・・・・・1月14日(日)

映画：どですかでん・・・・・・・・・・・・・・・・・・2月4日(日)

映画：七人の侍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3月3日(日)